男女貞操之理想　公娼廢止之主張

會長 島田三郎　副會長 安部磯雄

4—705

廓清

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）（大正七年七月一日印刷發行）（毎月一回一日發行）

第八卷第七號

□廓清時言……………………伊藤江南
□佛蘭西賣國事件……………前衆議院議長 島田三郎
□米國の廓清運動……………廓清會理事 油谷治郎七
□女大學新評論（五）…………一條忠衛
□娼强盜と其裁判……………法學博士 大場茂馬
□家庭の和樂…………………東洋大學教授 高島平三郎
□夏と人生……………………文學士 小松武治
□學生の誘惑…………………學生青年會幹事 モット
□寒暑の解脱…………………新佛教幹事 高島米峰
□織田氏と明智氏の家庭……衆議院議員 福本日南
□天皷の響……………………水野芳之助

懸賞論文發表
▲公娼の全廢（一等）……同志社大學 福原勤之
▲生物學上の公娼（一等）大阪醫科大學 谷向茂峻
▲公娼の全廢（三等）……第七高等學校 門田武雄

東京 廓清會本部 發行

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

夏の爽快は

朝起に、食後に、午下の倦怠時に、外出後に、寝前に、夜の寝苦しい時に……

新時代の芳香含嗽料

ライオン水歯磨を召しませ！

東京市本所區[illegible]町
ライオン歯磨
ライオン石鹸 本舗 小林富次郎

支店 大阪市西區[illegible]町二丁目
名古屋市[illegible]町[illegible]丁目
上海・天津・漢口・[illegible]

◎御注文の際は必ず雜誌『廓清』に依る旨御申添を乞ふ◎

産婦人科。小兒科

鷲山改め

女醫 吉岡彌生

△院長診療 宅診午前 往診午後

△醫員診察 午後

産室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京市麹町區飯田町四丁目三十一番地

東京至誠病院

電話番町二二五七番

山室軍平氏著

社會廓清論

特價七十錢 郵税八錢

グレゴリー氏著（邦譯）

歐洲諸國醜業公認制度廢止運動

特價十錢 税共

伊藤秀吉氏著

娼妓自由廢業案内

特價十二錢 税共

酒きらひになるくすり

禁酒丸

一週分一圓

二週分一圓九十錢

三週分二圓八十錢

どんな酒煙草のみでもからだに少しも害なく心からきらいになること妙 郵劵二錢送れば説明書及大澤博士其他名士の禁酒禁煙論を進呈

禁煙液

五拾錢

壹圓

壹圓五拾錢

煙草きらひになる**藥**

本舗 大阪靭南通二丁目 **森田商店**

電話土佐堀二二六〇番

振替大阪三三一二番

廓清
THE PURITY

大正七年七月

第八巻第七號

廓清時言

舊道德の生める悲劇

先日各新聞紙は『亞米利加に出稼し居れる男が、多年音信不通となり居りし爲め、全く死亡したるものと思ひ、其妻は舅の親切なる勸めに從ひて弟の嫁となり、夫婦仲も睦じく暮し居たりしに、此程突然死したる筈の男が電報を寄越して、一角の成功をなし金も溜りたれば唯今歸國の船に乘る、一日も早く父上を始め妻子の喜ぶ顔を見度しとの事に、一家は愕然色を失ひ、今更如何にせばよきかと若悶中』との記事を掲げたり。之れが解決は如何にしたものかと、目下各方面に世間話の問題となり居れり。

之れを法律上より見ば、音信不通既に數年を經過せる事とて、妻の離婚は適法にして再婚の權利を有する事なれば、何等問題とはならず、されど法律上問題にならざればとて、お互の心に問題にならぬ譯には行かぬ也。況んや親子兄弟の仲として互に光風霽月、何の蟠りもなく血肉の交情を續けん事、思ひも寄らざるべし。果して然らば法律上は兎もあれ、眼前の事實に對して敎學の任にある者、相當解決を與ふべきは勿論ならん。

テニソンの詩エノックアーデンは之に酷似し一解決を與ふ。アーデンは多年無人島に漂流し居りたる爲め、其妻は難船死沒したるもゝと思ひ、嘗て己れを嫁らんとしてアーデンと競爭したる男の、種に夫なき後の苦しき生計を助け呉れる親切にほだされ、遂に乞はるゝまゝ其男に再縁し子まで擧げたり。アーデンは長き漂流生活の間、戀しさに得堪えで空しく妻の名を呼びては飛鳥を驚かしたる事幾度なるを知らざる程なりしが、辛うじて助け船を得て歸鄕し、始めて人の噂に妻の消息を知りて轉倒せんばかりに

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

打驚き、暗夜に乗じて密に其の家に忍び、窓外より硝子越しに内の様子を窺ひ見れば嫉ましの男は我子と覺しきとストーヴの側にありて樂しげに打語らひ、最愛の妻は何事ぞ戀敵の赤子を抱きて打笑みつゝあり、團欒の氣窓外に溢る。アーデンが此時の思ひや如何なりけん、腸は九回しぬべし、眦は裂けぬらん。己れ姦夫姦婦め！と出刃庖丁を逆手に、日本人ならんには躍り込むべき處なるを、彼は靜に高鳴る心臟を押へつゝ神に禱りぬ。而して彼は今、己れてふ者の出現によりて、妻の幸福を掻き亂すべきを恐れ、自ら永遠に彼女の前に出でざるこそ、眞に彼女を愛する所以の道なれと考へ、わなゝく足を辛くも踏みしめ、密に引返して自殺し果てたり。

解決の根本的研究

エノックアーデンの如きは、トルストイの所謂『羊の毛皮をつけたる狼の如き愛に』非ずして、眞に美はしき犧牲的の愛を現したるものなるが、吾人は更に根本に遡りて斯かる事實の依つて起る所以より攻究の必要を感ず。音信不通といふは元より宜しからざれど、成功する迄音信を斷つは、今日尚ほ男子の意氣としてあり得る思想なり、親が兄嫁を弟に配するも通常のこと也。妻として弟の嫁になるも、弟として姉を娶るもあり勝ちの事也。即ち三方四方、今日の道德に於て非難なき事をして、而も斯かる解決に苦しむ結果に立至るといふは、現代道德の缺陷を明證するものに非ずや。

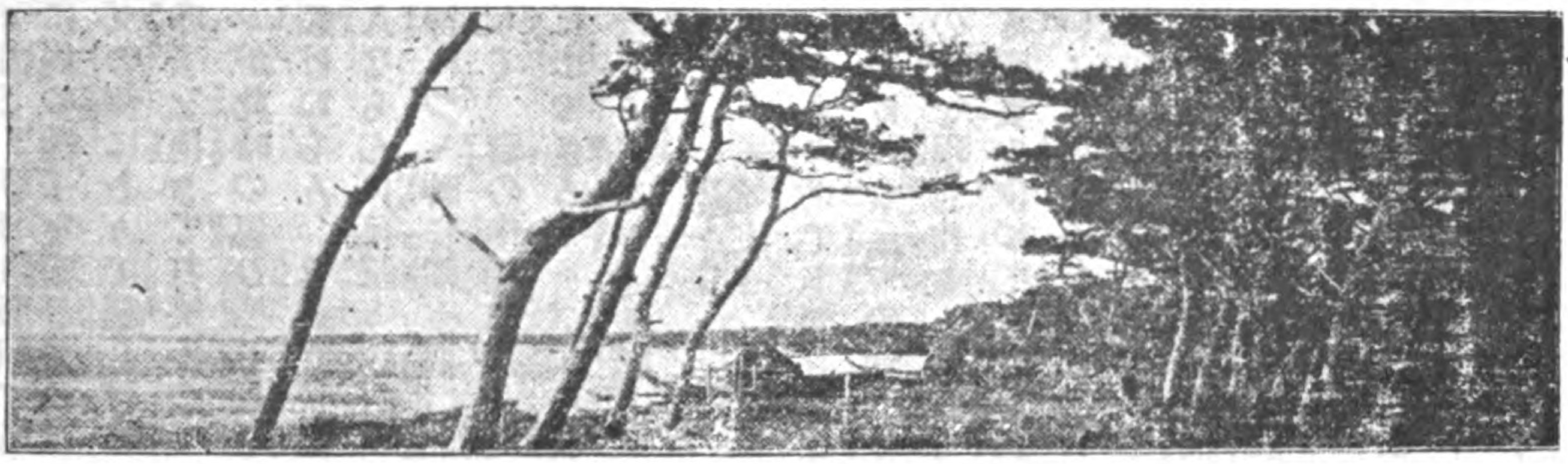
然らば右の場合に於ては、男が音信を怠らざればそれにてよきやといふに、決して然らず、今日の男子の行動は全く專制政治にして絶對の權利を有して妻に無條件の服從を強ゆれども、斯くの如きは人格の自覺なき時代の思想にして、現代の男女道德に於ては、夫婦は互に其の認諾を必要とするが故に、夫は妻の同意を得ることなくして、勝手に出稼ぎの年月を延長すべきに非ず、若し妻の同意を得ざるに於ては歸國の外はあるべからず。最近ヒリッピン總督ハリソン夫人が、夫に辭職歸國を求むる事屢々なるに不拘、ハリソン氏が比島の爲めに熱心盡瘁して容易に肯せざるが爲め、夫人は遂にサンデーゴ裁判所に離婚の請求をなしたるが、同裁判所は去る七日離婚を許可したる旨電報ありたり。國事の爲めに盡すハリソン氏の如き場合に於ても、尚ほ家庭を顧るなくんば離婚を請求するは、又止むを得ざる夫人の權利なり。

更に然らば親と嫁と弟の立場は如何といふに、吾人の提唱する新道德の權威は此際に於て最も顯著にして、吾人の絶對的一夫一婦説に於ては、決して斯かる悲劇の生ずる憂なく結婚を以て生活と生殖の便宜に供するより問題を生ず。死を以て夫婦關係の斷絶となす論者に對しては、死者の蘇り來る如きは痛烈骨を刺すの深刻なる皮肉にあらずや。

高松公會堂の醜業勤續祝

高松市に於て、去る廿四日藝妓の勤續三十年祝賀會を縣公會堂に開き、縣知事舊藩主等よりの祝物を山と積み來賓中の鐵道院出張所長は萬歳を三唱す。嗚呼醜業を營む事三十年、風敎を賊する事年あるが故に之を祝すべしとする乎、而も縣の重要なる公開堂を醜業繼續祝賀の宴に汚す、何等の失態ぞ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY



佛蘭西賣國事件の教訓

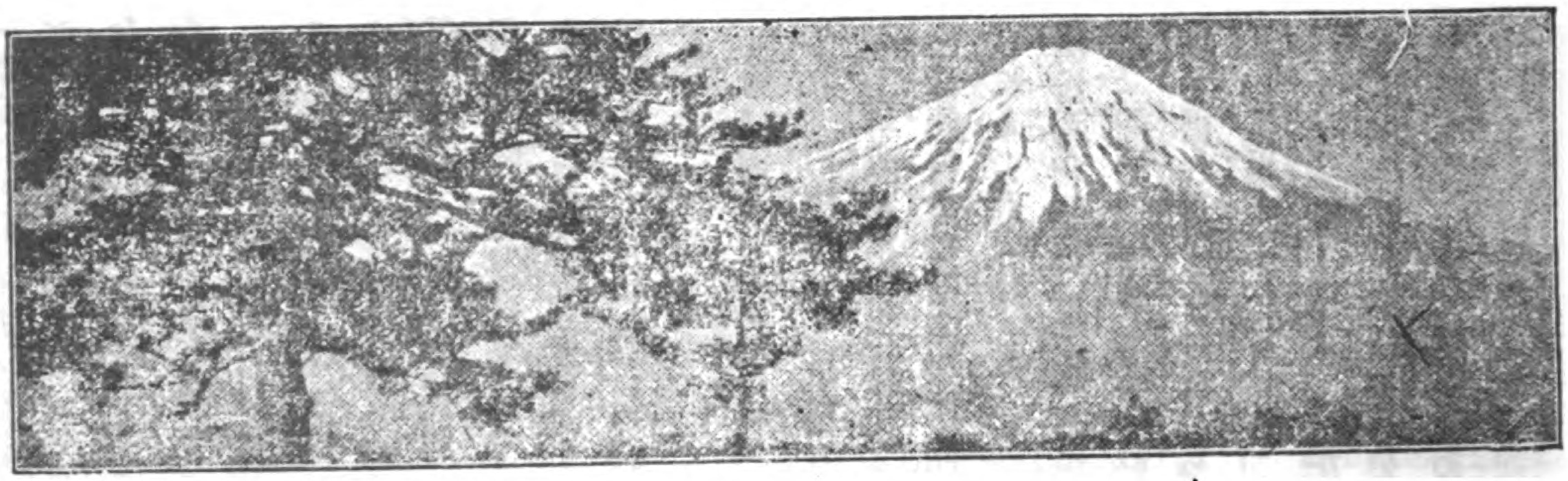
廓清會長　島田三郎

□公人の私行と徂徠學派の墮落

人生發達の上より云へば、個人集まつて部落をなし、部落成長して社會國家をなすのである。故に公の行も私の行も人の天性より云へば判然たる區別はない。私の行が修まらずして獨り公の行が正しくなる道理はないのである。然るに世間普通の説を聞くに、私の行を以て公の人に責めるを酷とし、彼の品性私行は缺點が多いが、公の仕事には毫も妨がないから、公務さへ適當に處理するなら私行は論ずるに及ばない。矢釜しく私行を論ずるは野暮であるといふ。如斯議論は唯俗間の思想のみでなく、相當學殖あり思慮ある人も尚斯かる誤想に囚はれてゐるのは東洋從來の流行説である。特に現在に於て然りとする。唯現在のみならず德川時代に於ても、儒者が文學に偏して德行を論ずるのを、理窟屋の偏狹なる僻論であるといふ樣に考へた時代もある。

特に徂徠の學派が古文辭學を儒學の眞相なりと説いた爲めに、其の末流の間に一種の弊が長ずる樣になつた。勿論孔子の敎へにも文學を其一科と立て、其門人の長所を擧ぐる語中に文學は子游子夏といふた位であるから決して文學を卑しむだのではないが、文字其物が儒學の全體ではない。徂徠學派末流の徒が品行修まらず、學者は放蕩のものと云はれて、世間の風敎は蕩然として破れた、松平定信(樂翁)が風紀の刷新を政治の第一要諦として熱心努力したのが、所謂寛政年間正學振興の大英斷であつて、東洋に彼の公私の行は別種だといふ思想あるは決して孔子の正學ではない。『意を誠にし心を正しくし、身を修めて之を國家社會に及ぼす』といふのが大學の敎へであり、『家政に則り兄弟に至り、以て家邦を治む』。之れが孟子の政治論である。斯く考へ來れば現代の公の事さへ相當に行けば、私行は論ずるに及ばぬといふのは、單に歐米の純潔なる社會に於て認められざる處なると共に、孔子の正宗から論じても、現代歐米上流の思想と其軌は一である。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY



□賄賂瀆職は私行の破壞より起る

理論は斯くの如くであるが、社會の現在を觀察するに、中央地方に表はるゝ政治上の罪惡の最も人心を紊り、風紀を破る賄賂瀆職の行はるゝ經路を稽みるに、一として私行の破れから來らぬものはない、特に奢侈の風が先づ家を犯し、次に社會を犯す殆んど流行病の如き勢を以て各地に表はるゝのは近代の特色である。

大小の實例を擧げんか枚擧に遑がないが、人の記憶にあるものを云へば、教科書事件の如き、日糖事件の如き、海軍事件の如き、又近來に現はれた九州を中心に東北等に起れる製鐵所及鐵道關係の禍の如き、又は京都の府政を混亂に陷れたる苦々しき事實の如きがあり、其の流毒は一見して血を流さゞる事とて餘り世間では重大事件とせざる傾向があるけれ共、實際は如斯害は人の耳目を聳動する爭闘や流血の禍よりは、更に怖るべきもので、朝鮮が此禍を受けて自國を維持する能はず、支那が此禍を受けて曠土空しく糜爛の有樣を呈し、露西亞が此禍を受けて目前悲慘の狀態を現じてゐる。而して是れ皆人の心を犯す處の風紀壞敗の結果であるから、不正の禍が、暗所に醸生し其結果、外に表はれんか手のつけ處なき有樣となるのである。家の中の風紀が敗れ、平生の行が放蕩糜亂、財を得れば隨て慾を燃やし、慾を燃やせば財を得る爲めに不正を辭せざるに至る。注意して瀆職罪の成行の眞相を視れば、大抵不正に得たる財を亂行に費し、不正の財を待合や遊廓に於て酒食の間に遣り取りするのが普通であつて、畢竟は爲すべからざる事を爲さんが爲め、取る可からざるものを取るのである、教育も是れが爲めに亂れ、商業も是れが爲めに僞りとなり、政治も是れが爲めに公正を持する事が出來ぬ、私行を以て論ずるに足らぬとなすが如きは、其思想の不徹底なる眼光の卑近なること嘆ずべきまでであつて、此形勢を長ずれば遂には人類の自國に害があらうと已れに益あれば忍んで行ひ、國家に危險があらうと一身に便利があれば平氣で忌まぬ危險の思想となる。眞に怖れて而して恐れざるを得ない。

□人類の自由と自國の獨立を賣る

世人は昨年の九月、佛蘭西に起つた事件で、今年の四月其の巨魁が死刑にされた佛蘭西國に取つて

一大危機を醸したる事件を記憶するであらう。即ちボーロパシヤと呼ばるゝ一個の危險人物が、獨逸の金を取つて佛蘭西を賣り、兼ねて世界の自由對專制の一大競爭に、人類の自由を賣らんとした大事件がある。

此事件を語るには、先づ其人物の經歷を一瞥する必要がある。此人物はマルセイユに生れて、貧しき商館手代の子であつた。或は理髮師をした事もあり、齒科醫ともなり、貸短艇營業もやり、或は料理屋をもやつた。一念唯利慾に囚はれた男で、特に放蕩であつて屢々婦人を欺いた。世に所謂色魔である。嘗て埃及に行き、當時の埃及王に寵せられてパシヤの榮職を得たといふ。之れから世間では彼の事をボーロパシヤと呼ぶに至つた。

彼は獨逸の外交官ベルンスドルフ伯と埃及に於て懇意となつた。巴里へ歸つて堂々たる住宅を構へ人に羨まるゝ生活をして、盛んに黄白を散じ人望を博するに努めた。今にして見れば此の金の出所が不明であつて、どうも獨逸の金らしく思はれる。人も知る如くベルンスドルフ伯は、外交官として他國に至つて常に其國を攪亂する性質の人で、其の技倆もあつた。斯かる經歷を考へれば、其金はベルンスドルフ伯の手を經て得たものと想像せらるゝのである。然るに千九百十四年此の世界大亂の始め頃、ボーロパシヤは融通が惡くなつて、頗る寂莫の生活をしたから、彼は商賣に失敗をしたと評されて居つたが、忽ち大金を散ずる融通がついた。其の金は瑞西を經て手に入つたのであつて今から見れば之も獨逸の金であつたと思はれる。

□天網恢々粗にして漏さず

一昨年彼は米國に赴いてニューヨークの社交場裡に其勢力を揮はんとした。此時彼と親密の交りをしたのは米國の新聞王ハーストである。彼は滯在僅に二十六日にして巴里に引返した。此間に彼は米國の社會に獨逸の贊成者を得る事に働いたらしい。佛蘭西の上院議員シャール・ウンベールは巴里の新聞ル・ジュールナーの持主であるが、此のウンベールの名を以てボーロパシヤは亞米利加のモルガン銀行に三十四萬圓を預金した。是れは新聞買收の費用に當てる目算であつたといふ。ボーロパシヤの考へは佛蘭西の政治家と新聞記者を金によつて左右して、佛蘭西に平和風を吹かせやうといふにあつた。ニューヨークのアミンスク銀行と提携して種々なる計劃をやつた。斯くして彼はあはよくば佛蘭西に單獨媾和なさしめんとしたが、幸にして其事が發覺し、昨年の九月遂に刑事の被告人となつた。是れは金の出所を怪しまるゝ事が其の發端で、佛蘭西政府は密に亞米利加政府に依賴して、米國に於ける彼の行動を調査し、是れによつて獨探となれる證據が擧つて捕へられたのであつた。

□蕩兒の慾望世界の危機を醸す

斯くて開かれたる裁判には種々なる證人が呼ばれたが、其中に嘗て彼がパノンといふ美術家と共同事業の商店を巴里に開いてパノンは破産し、パノンの妻はボーロパシヤに欺かれて彼と共に逃亡した、パノン夫人は此惡漢の爲めに自分の夫

を捨て丶去つたが、冷酷なる彼に捨てられて悔悟し元の家に戻つたけれ共、彼女は悔恨懊悩の結果か、又は彼の悪人の爲めに悪疾を得たのか、現在は盲目となつてゐる。裁判官に此刑事被告人は嘗て汝の知れる處のボーロと同人であるかと問はれたが、盲目の爲めに此被告が果して同人であるか否か明かでないと答へた。其の法廷の有樣は如何にも悲慘で、パノン一家の不幸と此姦通婦人の憐れむべき有樣は坐ろに人をして歎息せしめたといふ。

ボーロパシャは人の妻を欺いて誘拐したのみならず、尙他に關係した三人の婦人が喚問された。一人は彼の先妻であり、一人は彼の現在の妻であつた。捨てられた彼の妻は彼の爲めに不利益なる證言をなし、現在の妻は有利なる證言をなした。彼が女に對して汚れたる有樣は此れによつても明かである。更に一人は彼がアルゼンチンにあつた時關係した婦人である。此女は餘程耻入つたと見えて、自分の彼を知つてゐるのは頗る以前の事であり又今回の裁判に關係もない事である云々、と曖昧な陳述をなしてゐる。

是等婦人の喚問によりても、彼が男として最も恥づ可き行を敢てする人物であり、己の慾望を遂げんが爲めに何事も憚らぬ人間であり、虛榮と放蕩とが其望みであり、而して其望みを遂げん爲には如何なる事をもなし得る人物である事を知るのであるが、其始めに於ては淫蕩の慾望を遂げんが爲めに金の必要を感じた程度であつたらうと思ふ。而して其感じの高まるや國を賣つて憚らざる迄の性質に變じたのであらう。若しボーロパシャの計劃が成つたなら佛蘭西は露西亞の二の舞を現じたに違ひない。巴里は今日のペテログラードと同じ運命に陷つたであらう、若しも佛蘭西が左樣な事になつたとしたならば、同盟諸國は今日の有樣を保つ事は出來ないのである。

現在の戰は壓制と自由との競爭である、吾人が同盟國の代表者の言語の如く思ふウキルソンの演說や宣言を讀んでも、獨逸が一度覇權を得る事となつたなら、或時間の間は力づくの世界となるであらう。眞に世界の危機である。而も一人のボーロパシャの放蕩を盡したいとの念は、遂に社會を此危機に導かんとしたのである。人の心の正しからざるより延いて社會一般に及ぼす禍害の如何に大なるものなるか、吾人は此の佛蘭西の天地を震駭せしめたボーロパシャの裁判によつて、深く省察する處がなくてはならぬと思ふ。

□廓淸運動の要愈切實なり

ボーロの計劃は單に佛蘭西、亞米利加、瑞西の間に止まらず、伊太利にも手を入れた、伊太利に單獨媾和の風を吹かしめんとした彼の運動は人心を誘惑する點に於て幾分其効果を現はしたのである。而も是れ亦彼の罪惡發覺の一端をなしてゐる。

彼は一面に於て實に姦智にたけた、良心の消滅した人物であるが、他面に於て極めて意志の鞏固な、交際の巧妙な、才能の優れた男であつたと見えて、佛蘭西の著明な人物が其交際の仲間に引入られてゐる。同國の前內務長官マルヴイー前內閣總理カイヨー等も皆彼の親友となつた。加特力の僧侶の

中にも彼と共鳴した者があつた。彼は其罪確定して本年四月死刑に處せられたが、カイヨー等は今尚審理されつゝある。

カイヨーは内閣總理となる程、政治上有力な人であるが、やはり媾和の運動をやつて、國事犯を以て求刑せられ其の審理中である、此人も婦人に對する思想の不純潔なる人である事は、嘗て人の妻を奪ふたといふ譏を受け、フイガロ雜誌に其事件を摘記された爲め、夫人が激怒して同誌の主筆を銃殺した事件がある、此騷動の爲め一時彼は政界を遁れて外國に行衞を晦ましてゐたが、近來再び歸つて政界の人となつてゐた。果して人の妻と醜交を結んだが、其事實は今云ふ限りではないが、要するに品行の方正な人でない。華美な生活をする才人であると人に知られてゐる。またボーロパシヤの親友の一人アルメーダは、巴里の『赤巾』といふ雜誌の主筆であるが、同じく獨探の嫌疑を受けて囚はれ、自ら免る可からざるを悟つたか獄中に自殺した。

何れにしても、今や戰は愈々酣に、祖國存亡の危機に立つて、國を愛し同胞を愛する佛蘭西人は、親も兄弟も夫婦も其の相愛の念を忘れて身を國家に献ずるの時に當つて、其の祖國と同胞を敵國の金に賣らんとするが如き、ボーロの心術の如何に憎む可く怖るべきか、全く言語に絕するのであるが、斯かる心術の依つて生れる所以を討究すれば、一に男女間の觀念正しからざるに胚胎し、品行紊れて虛榮と淫蕩の慾望其良心を燒き盡したるにありて、吾人は廓清運動の愈々切實なるを感ずると共に、私行何ぞ公事に與らんと放言するの誤れる觀察であることを感せざるを得ないのである。

夏と人生

文學士 小松武治

箴言第六章を繙いて見よ「惰者よ汝蟻にゆき其爲すところを視て智慧を得よ」と云ふ言葉がある。卑近な事ではあるが時節柄大に教訓とすべきものがある。彼等は「夏のうちに食をそなへ收穫の時に糧を斂む」るのである。

人生を四季に當てはめて見る。生れてから丁年迄は春、丁年から四十迄は夏、四十から六十までは秋、六十から八十以後は冬とする事が出來やう。人生の夏は即ち强壯時代活動時代、貯蓄時代、であるは云ふを俟たぬ。夏の氣象は赤曬熾暑であり、其衝動は疾風驟雨である。炎威の赫々たるは青年の元氣潑溂たるに比すべく、陽氣の熾盛は其抑制し難き精力に較ぶべきものである。我等は夏に於て自然の誇りを見るを得べく、青年に於て人生の誇りを見る事が出來るのである。青年の時代を徒らに過ごさば老來空しく悲愁するのみである。奮發して夕刻遙かに悶卒出すが如き愚を演ぜぬやうにするのが肝腎である。

今日は物價騰貴の時節であり、生活難に苦めらるゝ最中である、働いても働いても貧に追ひ廻はさるゝ折柄である。素より避暑よ別莊行きよと贅を極むる連中は益々得意に成つて虛榮心を唆そる事であらう。併し人間は結局裸に成つて、あたり構はず冷水を浴ぶるより以上の避暑を爲し得ぬのである。終日存分に働いて有り丈の汗を流して我家に歸り、丸裸に爲つて椽先で團扇を使ひつゝ夕餐を濟ます、之れ程安價にして簡便な方法はないのである。

着物も襖も障子も邪魔、儀式も挨拶も食物も淡泊なるがよい、分けて心の中に一物があつては暑苦しい事夥しい。憎惡の念、嫉妬の思、怨嗟の心、此等を心の隅から綺麗に掃ひ除けなければならぬ。身體に凉味を得んとせば、先づ精神に清爽の氣が充滿しなければならぬ。

予輩は何人にも勸めたい積極的避暑法がある。其は暑に向つて挑戰する事である。結核菌を退治するに結核菌を以てする如く、暑を征服するのには彌々暑さに對抗して勤勞せればならぬ。暑熱の征服者たる覺悟を以て此夏を過ごされなば幸ひである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓清運動と法制

口□最近米國の傾向□口

廓清會理事　油谷治郎七

最近十五年間を顧みるに、米國の公衆は女子の權利と貞潔とを侵奪するを憎むの念著しく銳敏となり、其覺めたる社會的良心は、淪落の生活より婦人を救ひ、又妙齡の女子を防護して沈淪することなからしめんとする運動日を追つて切實となるを見る。其發して法制に現はれたるもの丶うち、注目すべきもの尠からず。

□醜業婦人の入國禁止

其一は醜業を營む目的を以て入國する婦女、及び醜業を營ましむる目的を以て婦女を入國せしむる男子に對して嚴罰を課して之を禁壓することにした。由來米國は中歐諸國に比すれば、概して男女道德の嚴肅なる地である。淸敎徒の子孫の地たる新英州は云ふまでもなく、クエーカー宗徒の開拓せるところ、メソヂスト敎徒の移住せる地、長老派浸禮派監督派其他の基督敎徒の家庭いづれも性的關係に於て凛然たる貞潔の理想を重んじ假苟にも其倫を破るを潔とせざる風ありしが近ごろ南歐及び東歐地方より、無學にして倫理觀念の低劣なる男女の潮の如く注ぎ入れるあり。うちに醜業婦及び其背後に在りて汚利を掠むる惡漢の入り來りて都市に醜窟を造るもの尠くない、之を防ぐの手段として、千九百七年二月醜業婦輸入禁壓の法律を布いたのである。その結果として千九百八年より千九百十五年に至るまでに、醜業目的の婦人の入國を拒絕せられたるもの二千三百十七人、これらの婦人輸入を圖りし男子の入國を拒絕せられたるもの千四百三十五人に上る

外國より米國に輸入せらるゝを防ぐのみならず、又國內に於て、開港地を通じて入り來る社會的黴菌を各州自衞の必要あり、千九百十年インターステート、トラフィック法なるものを施行して不倫の目的を以て婦女(娼婦のみならず)を米國領內の州より州に輸送するを防ぐことにした。紐育よりアラスカ、ポートリコ、ハワイ及びパナマ地方に輸送せらるゝ婦女は少くないのである。千九百十年六月より千九百十五年一月までに、此法律違犯を以て刑を受けたるもの一千五十七人にして、四十四洲及びヒリッピン及びハワイに及ぶ、其最も多數なりしはワシントン、ミシガン、ニューヨーク、イリノイオレゴン、ミゾリ及びテキサスである。されど其犯則の證據を擧ぐるに頗る困難なるが故に、多數は易く法網を逃れたであらふと想察するに難くはない。實に此中心地と目指すべきニューヨークに於ては、千九百十年州の刑法二千四百六十條

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

を以て、醜業其他不倫の目的を以て婦人を同州に輸入するもの、及び同州より他に輸出するものは、二年以上二十年以下の禁錮に處し及び五千弗の科料を附加することを規定してある、最近諸州に於ては、ニューヨーク州の例にひ倣ひ益々其法律を嚴にして防禦策を講じてゐる。

□醜行の「合意の年齢」

女子の意に反して醜行を加ふるもの、又は醜業を犯さしむべく誘拐せるもの、又は醜業をなし、或は爲さしむる媒介をなせるもの、いづれも嚴罰に處せらるべきは勿論である。少女に醜行を加ふるものが嚴刑に課せらるべき同一ながら、其所謂「合意の年齢」と稱する年齢の制限に於て、諸州制を同ふせず、一州ば之を二十一歳と定め、二十一州に於ては十八歳と規定し、十七州及びデストリクト・オブ・コロンビア（華府の所在地）とアラスカに於ては、十六歳とし、二州及びハワイに於ては十五歳とし、六州に於ては十四歳とし、ゼオルジア州に於ては十歳とす、國家が女子の道徳上の保護を引受くべき年齢は、斯くの如く諸州其規を一にせず。然れども概して言へば、近時州の刑法の改正と輿論の動くところに徴するに、多くは十八歳を以て適度とするものゝやうである。乃ち現に米國の二十二州以上に在ては、十八歳以下の女子にして苟くも賣春的行動をなすものあらば、之を醜業婦として法に問ひ又十八歳以下の女子を弄ぶ男子は嚴刑に處せらるゝのである。東洋の君子國に在つては人身賣買的奴隷的の醜業婦たることを公認する年齢の制限を、十八歳より今更十六歳に引下げんとするの運動あり。又十四歳以上の女子に藝妓たることを公許し、其雛妓の情を弄ぶ男子も何等法律の制裁を受くることとなし。而して之を非難する強き輿論も未だ聞えないのである。

女子を誘拐するもの、及び醜業の媒介をなすものに對しては、州法により、其法制一ならず、ニューヨーク州に於ては職業紹介者のうち、外國より新に移住し來れる女子を誘拐し、怪しきカフエーや又はマッサージパーラーなどに導き、淪落の女たらしむるもの少くないが、州法は是等を嚴重に取締つてゐるが、近ごろ墺匈國より來りしベラレヴィネと呼ぶ女子を誘拐せる職業周旋業者を罰するに、十年以上二十年以下の禁錮と一萬弗の科料の附加刑を以てしたことがある。

人の劣情を挑發する繪畫を販賣し、若くは文書を配布し、若くば廣告をなすものは罰せらる。同じく又醜業の廣告をなすもの、其媒介をなすもの、其紹介をなす自動車運轉手、皆各法に問はるゝことになつてゐるものあれば、州によりては此點に關して案外不取締なるところもある。西南部諸州に於て殊に然り。而かも輿論は東北部諸州の例に倣はんことを奨めてゐる。其法制となりて各州に施さるゝも遠くあるまい。

□醜業婦に家室を貸す者の所罰

醜業を營むものに家を貸し、又は室を貸すもの、或は醜窟の所有主、又は其管理者は刑法に問はるゝことは各州同一である。マサチユセッツ州の如きは最近の法律によれば五十弗乃至百弗の科料及び三ケ月乃至十二ケ月の禁錮に處せられる

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ことになつてゐる。而かも普通の手段に依りて其犯則者を檢擧し之を罰するの頗る難事なるは、各國の經驗するところ、是に於てか、千九百九年アイオワ州に始め、續いて已に二十六州に勵行してゐるところ。インジヤンクシヨン・エンド・アベートメント法なるものがある。其模範的なるものは、千九百十三年に成れるミネソタ州の法律である。インジヤンクシヨン・エンド・アベートメント法は、不道德なる行爲の目的の爲に使用する財產の所有主に對して其使用を禁止する非常手段を執行するやう、市民の何人と雖も告發する權利を認むるのである。卽醜業に使用する爲に家屋を貸し、又は其幾分の使用權を貸せる場合に、此法律によりて、隣人の爲に告發せられたる場合其貸借權は直に無効とせらるるのである。此法律の間接の影響は實に偉大なるものがある。或はアイオワ州のデスモイン市其他に於けるが如く、家宅所有者は其家宅を借用せんとするもの丶職業性格を明知せざるときは、其風俗を害することに使用せざらんがため、警官に其調査を依賴し、好ましからざる職業のものには、使用權を拒絕するのである。

風俗を亂すものを防ぐため近く家宅に關する法制を施せる他の一例は、オレゴン州ポートランド市が率先して行ひたるもので、卽ちチン・プレート（錫板の表札）令と呼ばるるものである。家屋の目に着くところに其所有者の姓名を錫製表札に記して揭ぐべきものとし、以て其評判あしき家の持主を公衆に明知せしめるやうにする、持主は自ら耻ぢて家宅を斯かる醜に貸さゞるに至るであらふ。

□進んで買笑男子の所罰

更に一歩を進めたるものは、醜業を目的とする場所、又は建物に足を踏み入れたるものを罰する法律の制せられたることである。多くの法律は私かに醜業を營む婦人を罰することをするが、醜業を營ましむるもの及び是等婦人と戯る丶男子を罪に問はざるは論理の徹底せざるものである。惡漢は常に醜業を營ましむるものであり、其醜業婦と戯る丶遊蕩兒は風俗を害する輩である。カネチカット州の千九百二年の改正法律によれば、如何はしき家を經營するもの、醜業婦の背後にあるもの等と同じく、其家に足を入れ、其婦人と戯れたるものも亦罪せらる、卽百弗以下の科料に處せられ、若くは六ケ月以下の禁錮にあふか、或は兩者を課せらるるのである。

破倫の行爲は男女兩成敗たるべきものである。苦界に身を沈めたる婦人のみを責罰して、其婦人を陷れたるもの、又は其婦人を弄ぶ男子、若くは弄ばしむべく媒介をなすものを罪に問はざるは、實に不條理の甚しきものと云はねばならぬ。

□米國諸都市の取締

是等に對する米國の法制の近狀は、以上記せしところによつて略ぼ想察せらるるであらふ。淪落の婦人を救濟し、或は其墮落せんとするものを防護するの策を講ずるに當つて、三たび思を茲に致す必要はあると思ふ。然しながら一方に賣春行爲を公認して、他方彼等を媒介するもの又は彼等を弄ぶもの或は彼等を誘つて其業に就かしめたるものを罰するを得べ

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

からず。娼妓公認の國に於ては、自ら性的關係の法制に於て非論理的にして、又自らルーズたらざるを得ない。今米國の都市に於て、娼婦に關する文面上の法制のみにあらず實際勵行するところを調査せるマイナー女史の報ずるところによれば、百の最大の都市と風俗狀態特別調査を行へる十都市とのうち、九十三都市のみ分明せるところによれば、うち六十六都市は全く公娼を許さず、私娼密娼と稱すべき輩も嚴重に禁壓する手段を取つてゐる。二十七都市は警察の權内に於て娼婦取締をしてゐる、これらのうち三十三都市は、近く千九百十年後に於て、全廢制を斷行せるものである。乃ちニューヨーク、シカゴ、フイラデルフイア、ボルチモア、ボストン、セントルイス、シアトル、アトランタ、ロッチスター、デンバー、クリーブランド、ピッツバーグ其他著名の都市は近く紅燈區域を全滅してしまつた。桑港とニュー・オルリアンスは未だ殘留してゐるが、近く其陷落を見るに至るであらう。十五都市と二州に於ては、ヴアイスコムミショナー（醜業調査委員）を擧げて調査したる結果は、全員一致して、全滅に贊してゐる。近く千九百十七年五月十八日米國議會を通過したる陸海軍兵營五哩以内の地に於ては嚴に醜業を營むものゝ存在を禁じたる法律のごとき、國防委員フォスデックの證言するところによれば、其結果著明であるとのことである。

（一九一八、六、二八）

避暑征暑忘暑

高島米峰

「言まいと思へど今日の暑さかな」餘計な時間と、餘計な金とを持つて居る人は、涼しいところへ、暑を避けるもよからう、暖いところへ、寒を逃れに行くもよからう。しかし、暑いと言つては、涼しいところへ逃げ出し、寒いと言つては、暖いところへ隱れようとする位の程度の人は、どうせどこへ往つたつて、眞の涼味を掬し、眞の暖味に浴する幸福は得られまい。「大名とあふがれながら暑さかな」で座の四隅に氷の柱を立て、煽風器を供へつけて、斷えず涼風を送らせたところで、畢竟これ、財布と寒暖計との問題で、寒い時には「炬燵には矢張り炬燵の寒さかな」の悲哀から、解脱することは出來ない。

言ふまでもなく、男子の世に立つや苟も、敵に後を見せるなんといふことの斷じてあるべき筈のものではない。心内の敵、心外の敵、敵にも種々あるが、寒暑の如きも、實に敵の片破れである。今、暑を避るといふものがあれば、そは即ち、敵に後を見せるのである。寒を避くるといふものがあれば、そも亦、敵に後を見せるのである。卑怯である。恥辱である。男子の面目として、これを征伐しなければならぬ、掃討しなければならぬ。

しかしさらに、一歩を進めてかんがへて見ると、避暑といふのも、征暑といふのも、ともに、暑に囚はれて居るのである。暑といふ敵が氣にかゝつて仕方がないのである。まだ迷の境界である、凡夫の立場である。暑は暑のまゝ安眠、寒は寒のまゝ安眠、寒暑を忘じ去つて、こゝにはじめて、眞涼を味ふことが出來るのである。

世に長壽を冀ふものは多い、しかし、千年の壽を保ち得たものがあるだらうか、なまじひに、長壽を冀ふよりは寧ろ死なぬ工夫をしてはどうだらう。

死なぬ工夫は、死ぬに越したことはない。一度死にさへすれば二度死ぬ氣遣ひはない。大死一番の後、なんぞ壽命の長短を論ずるの要があらうや、今、寒暑を忘ずるといふのは、すなはち寒暑に超越することである。寒暑の繋縛から、脱出することである、洞山の謂はゆる、無寒暑の處に向つて去るのである。世の寒を畏れ、暑を怖るゝの徒、これを畏れこれを怖れて、安じ得ないで居るよりは、寧ろ速に謂はゆる無寒暑の處に向つて、去る方がよいのではないか。

無寒暑のところといふのは、何處かと言へば、輕井澤でもない、熱海でもない、寒の時には汝を寒殺し、熱の時には汝を熱殺するのである。汝を熱殺して何の暑ぞ、汝を寒殺して何の寒ぞ、織田信長のために燒殺されたる甲斐の惠林寺の快川和尚が、火焔裏に坐定して、「安禪不必須山水、滅却心頭火亦涼」と唱へたるも、小田原最乘寺の慧春尼が、火定に入りて「冷熱は生道人の知るところにあらず」と喝破したるも、共にこれ、寒暑を忘じたのである。

（冷評熱罵から）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

女大學新評論（五）

『男女道德論』著者　一條忠衛

第六章　批判

一　婦人は別に主君なし夫を主人と思ひ敬ひ、愼みて事ふべし。輕しめ侮るべからず。總じて婦人の道は人に從ふに有り、夫に對するに顏色言葉遣ひ慇懃に謙り、和順なるべし。不忍にして不順なるべからず、奢て無禮なるべからず。是れ女子第一の勤也。夫の敎訓有らば其仰を叛くべからず。疑敷ことは夫に問ふて其下知に隨ふべし。夫問事あらば正しく答ふべし、其返答疎なるは無禮也。夫若し腹立怒時は恐れて順ふべし、怒り諍ひて其心に逆ふべからず。女は夫を以て天とす、返々も夫に逆ひて天の罰を受べからず。

この章の初に『婦人は別に主君なし。夫を主人と思ひ敬ひ、愼みて事ふべし。』とあるが、此の主君とは抑も何であるか人間は必ずしも君臣の關係に於て生活しなければならぬ者であるか。女大學は明かに君臣の關係を人間當然の本性として解して居る。男子は君臣の關係に於て生活するのであるから、女子も此の關係に於て生活しなければならぬと解し、唯だ女子には男子に於けるが如き主君が無いから、夫を以て主君と爲し、之れを主人として仰がねばならぬと云ふのである。之れに對して福澤氏は左の如き評論をされた。

『婦人に主君なしと云ふ。此主君とは抑も何者なるや、記者は封建時代の人にして何事に就ても都て其時代の有樣を見て立論することなれば、君臣主從は即ち藩主と士族との關係にして、其士族たる男子には藩の公務あれども、妻女は唯家の內に居るが故に婦人に主君なしと放言したることならんか。若しも然るときは百姓町人は男子にても藩務に關係なければ男女共に主君なしと云はざるを得ず。左りとは不都合なる可し。或は百姓が年貢を納め、町人が税を拂ふは即ち國君國主の爲めにするものなれば、自ら主君ありと云はんか、然らば則ち其年貢の米なり税金なり百姓町人の男女共に働きたるものなれば、此公用を勤めたる婦人は家來に非ず領民に非ずと云ふも不都合ならん。詰る所、婦人に主君なしとの立言は封建流儀より割出しても無稽なりと云ふの外なし。』

福澤翁の言はるゝ如く、封建時代に於ける女子には主君があつたのである。妻は夫と共に藩主の臣下であつたから、藩主を以て主君としなければならぬ道理である。けれども封建時代に於ては女子を公人と看做さず、單に內房に蟄居する下婢であつて、男子の胤を宿して子孫を存續する器具に過ぎないものであるから、夫を主君に擬して內房に於ける主人と仰ぐことは至極尤なことであつた。けれども今日の我が國は四民平等であつて且つ女子と雖も國民の一員である。奈良朝平安朝時代の如く女子も大御寶の一人である。天皇と大和撫子との間には君臣關係のあることは男子の場合と同樣である。唯だ今日では國民は天皇の私有物では無

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

く、國家の國民であるからして、國家と國民との關係に於て生活して居るので、往時のやうな專制的な君臣の關係に於て生活して居る者ではない。國家とは特定の領土に於ける人間の集合である。天皇は統治の總攬者である。それで人民も天皇も國家に對する關係に於て生活して居るので、天皇と人民との主從關係に於て生活して居るのでは無い。天皇と人民との關係は統治的關係であつて、主從關係ではない。それで吾々には今や往時のやうな君臣關係は無く、主從關係は無く一國民として獨立の人格者たるに止る者である。人格的存在者としては、貴賤貧富の差別なく、各自に天上天下唯我獨尊である。この人格的自覺に於て吾々は個人の權利義務を有するので、何人の奴隷とすること無しに、人權の平等に於て生活する者である。それで男女の間に於ても君臣の關係が無く、主從の關係が無くその間には勿論統治關係も無いのである。それで一男一女が結合して夫婦となれば、從つてその間には主從や統治の關係は全く無いのである。各自に兩本位たるものであつて、互に敬愛して、相共に愼み、相共に事ふべき者である。貴賤の思想を以て夫が妻を輕しめ侮ることも出來なければ、妻も亦た夫を疎じ侮ることが出來ない。故に正義に則つて相共に柔順にして親愛を盡くすべきものである。然るに女大學第六章は『總じて婦人の道は從ふに有り』と爲し、和順の德を力說し「是れ女子第一の勤也」として居る。これは禮記の內則から來て居る。「婦人伏二於人一也。是故無二專制之義一。有二三從之道一。在レ家從レ父。適レ人從レ夫。夫死從レ子。無レ所二敢自遂一也。」とある。それで夫の敎訓があれば是非の何たるを問はずに、如何なる場合でも其の仰を叛いてはならないとされて居る。又何か疑問のある場合には、夫に質問してその下知に隨はねばならぬことになつて居る。之れに由つて觀れば、夫は如何なる場合でも妻に取つては聖人であり、大哲學者であると云ふ相場になつて居る。それで夫が惡事を働く場合でも、惡事を命令する場合でも、妻はその仰に從つて和順でなければならぬ。婦人には專制の義なしと云ふので、乃ち何事によらず被治者であつて、自治者たることを許されて居ない。それで「夫若し腹立怒時は恐れて順ふべし。怒り諍ひて其心に逆ふべからず。」と結んで居る。

斯樣にして女大學第六章は妻に對して不平等なる服從を強ひ、女子をして男子の奴隷たらしめたのである。女子は全く男子の爲めに飼はれて居る牛馬と同樣にされて、飼主の男子から生殺與奪の權下に置かれたのである。それで妻に取つては自己の生命を支配する者は夫以外に無いとになつた。夫は妻に取つては全く天帝であることになつた。それで『女は夫を以て天とす返々も夫に逆ひて天の罰を受べからず。』と規定されて居る。夫を仰いで所天と爲し、この所天の爲めに肉を賣つて奴隷となつた東洋婦人は實に憐れむべき薄命者であつた。さうして東洋の謂ゆる此の天なる者は暴虐極まる利己主義者で、天帝たるや實に一箇の好色漢に價する者である。福澤氏はこれに對して下の如く批評されて居る。『女は夫を以て天とす云々に至りては、殆ど評論の言葉もある可からず、妻が夫を天とすれば夫は妻を以て神とす可し。夫に逆ひて天罰を受く可からずと云へば、妻を虐待して神罰を被る勿れと我輩は云はんと欲する者なり。』と。更にこの天としての男子は支那の禮儀の昏美には下の如く書かれて居る。『古者天子后立二大宮・三夫人・九嬪・二十七世婦・八十一御妻。以聽二天下之內治。以明二章婦順。故天下內和而家理。』一人の男子がかゝる無數の女子を妻妾として初めて天子の明德が明かになり、婦人の道德が明章になり、家齊ひ國治り、天下泰平であると云ふのである。こんな大法螺を吹いて女を騙かして、自己の女色を擅にした支那人の道德觀なるものは、實に亂暴極まる肉慾快樂主義であつた。而かも之れを聖人の訓と爲し禮記に記入して孔子の言であると爲した漢儒は、實に仁義の賊であつて後世を過つた者である。然るに女大學が此等の思想を飜譯印行して聖人の訓と爲し、女の道として日本女子に敎へ込んだことは、實に末代の恥辱

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

であつた。

第七章　批判

一　兄公女公は夫の兄弟なれば敬ふ可し夫の親類に謗られ憎るれば、舅姑の心に背て、我身の爲めには宜からず、睦敷すれば嫜の心にも協ふ、又娌を親み睦敷すべし。殊更夫の兄嫂は厚敬ふべし。我昆姉と同じくすべし。

これは夫の兄弟姉妹又はその家族員に對する心得を規定したものである。女大學は家族主義の結婚を本體とする者であるから、嫁に取つては此等の家族員に對する關係は全く戰國時代の國際關係と同一であつて、一言一行の過ちが軈て自己の破滅となるのであるから、朝夕此等の敵國に對する妥協を講じて防禦を嚴重にしなければならない事になる。嫁に取つての此等の苦勞は絕大なものになつて居る。舅姑に對する奉仕や夫に對する義務だけでも瘦せ衰へねばならぬ境遇であるのに、更に夫の兄弟姉妹やその他家族員又は親戚と云ふ連中に對してまで一々心配をせねばならぬのであるから、本を讀む暇も無く、新聞を見る時間も無く、足を伸ばして休む場所さへ無い。これでは大抵の女子は低能兒になり、病氣にもなり、發狂もしなければならぬ仕掛になつて居る。之れから推して觀ても、新夫婦は必ず別居して新天地に住み、氣を安かにして樂しみ、足も伸ばして休める樣で無ければならない。種々の家族員が雜居して群雄割據の姿であれば、平和ならんと欲しても求め得ないのである。それが爲めに無用の心配を爲し、無くて濟める道德を無理に作つて生活關係を複雜ならしめ、自ら其の繁文縟禮に惱んで居るとは、飽く迄も自繩自縛の徒である。

第八章　批判

一　嫉妬の心努々發すべからず、男淫亂なれば諫べし。怒怨べからず。妒甚しければ其氣色言葉も恐敷冷しく、却て夫に疎れ、見限らるゝ物なり。若し夫不義過あらば、我色を和らげ、聲を雅にして諫べし。諫を聽かずして怒らば先づ暫く止めて、後に夫の心和ぎたる時又諫べし。必ず氣色を暴し、聲をいらゝげて夫に逆ひ叛ことなかれ。

第四章の七去の第四項に『悋氣深ければ去る』と規定して、嫉妬の既に罪惡なることを揭げて置いたが、第八章に至つては更に之れを詳述して『嫉妬の心努々發すべからず云々』と規定して、夫の淫亂に處する心得を述べて居る。夫が若し淫亂で困る場合は一應これを諫めろと云ふのである。けれども諫めても聽かない場合は夫の心に叛くなと云ふのである。つまり夫が淫亂で底止する所を知らぬ場合には、嫉妬の心を夢にも出さないで、夫の爲すがまゝに任せて置けと云ふのである。既に夫を主君と爲し天として奉じ仰ぎ、聖人とも哲學者ともして許して居るのだから、一個の從者たる奴隸が最後までの干涉の出來ないのは勿論のことでまた出來得る資格を天から與へられて居ないのが女性の本體になつて居る。この夫に對する諫言の敎は、禮記の內則にある下の文章を燒き直して、子の親に對する諫言の道德を妻の夫に對する場合に當て嵌めたのである。禮記の內則には『父母有レ過下レ氣怡レ色柔レ聲以諫。諫若不レ入起レ敬起レ孝。說則復諫。不レ說與二其得一罪於鄕黨州閭一寧孰諫。父母怒不レ說。而撻レ之流レ血不レ敢疾怨。起レ敬起レ孝。』とある。女大學は斯

機にして夫婦の關係を親子の關係から演繹して、夫とは自己に取つては天とする所であるから、斯かる絶對的權威者に對しては、その貞操を最後まで難詰すべきものでは無いと爲して居る。そこで一夫一婦の貞操に必要なる嫉妬を女子にのみ禁じ、男子に對して之れを解放して暗々裡にその婬亂を幇助して居る。福澤氏はこの章に對して明快なる批評をされて居るから、其の要點を謹聽して見やう。

『抑も一夫一婦家に居て偕老同穴は結婚の契約なるに、其夫婦の一方が契約を無視し、敢て淫亂不品行を恣にし、他の一方を疎外するが如きは、即ち之を虐待し、之を侮辱することにして、破約加害の大なるものなれば、被害者たる婦人が正々堂々の議論以て其罪を責むるは、契約の權利を護るの法にして、固より嫉妬の痴情に驅らるゝものに非ず。但し其これを議論するに聲色を温雅にするは、上流社會の態度に於て自然に然る可し。我輩に於ても固より其野鄙粗暴を好まず、女性の當然なりと雖も、實際不品行の罪は一毫も恕す可からず、一毫も用捨す可からず、之が爲めに男子の怒ることあるも恐るゝに足らず、心を金石の如くにして爭ふことは婦人の本分なれ。女大學記者は是等の正論を目して嫉妬と云ふが、我輩は之を婦人の正當防禦と認め、其氣力の慥ならんことを勸告する者なり。記者は前節婦人七去の條に淫亂なれば去ると記し、婦人が不品行を犯せば其罪、直に放逐と宣告しながら今こゝには打て替り男子が同一種の罪を犯すときは婦人は之を怒りもせず、怨みもせず、氣色言葉を雅にし、却て其犯罪者に見限られぬやうに注意せよと云ふ、其偏頗不公平驚くに堪へたり。畢意記者は婚姻契約の重を知らず、隨て婦人の權利を知らず、恰も之を男子手中の物として、要は唯服從の一事なるが故に、其服從の極、男子の淫亂獸行をも輕々に看過せしめんとして、苟も婦人の權利を主張せんとするものあれば、忽ち嫉妬の二字を持出して之を威嚇し、之を制止せんとす。然るに男尊女卑の習慣は其由來久しく習慣漸く人の性を爲して、今日の婦人中動もすれば自から其權利を忘れて自から屈辱を甘んじ自から屈辱を忍んで終に自から苦しむ者多し。唯憐む可きのみ。其然る所以は何ぞや、幼少の時より家庭の教訓に教へられ、又世間一般の習慣に壓制せられて次第に萎縮し、男子の不品行を咎むるは嫉妬なり。嫉妬は婦人の愼むべき惡德なり之を口に發し、色に現すも恥辱なりと信じ、却て他の狂亂を許して次第に增長せしむるが故なり。畢竟するに婦人が婚姻の契約を等閑に附し去り、却て自から其權利を棄てゝ自から鬱憂の淵に沈み習慣の苦界に苦しむものと云ふ可し。啻に自身の不利のみならず、男子の醜行より生ずる直接間接の影響は延て子孫の不幸を釀し、一家滅亡の禍根にこそあれば、家の主婦たる責任ある者は自身の爲め自家の爲め飽くまでも權利を主張して、配偶者の亂暴狼藉を制止せざる可からず。吾々の勸告する所なり』。

内ケ崎作三郎氏序
一條忠衛氏著
男女道德論
四六版　美本五百頁
特價壹圓二十錢稅共
右廓清會本部に於て取次

學生の誘惑

萬國學生青年會同盟幹事　ジョン、アール、モット

□學生に來る誘惑の種類

青年諸君は皆其の生涯を最も有用なるものとしやうと切にお勉めなさる人々であると思ふ。青年諸君は各自有力なる人となり、或は一生の成功を來さんとの決心を持ち、且つ其の國家を強大ならしめやうと心掛けて居らるゝ方々であると思ふ。

然るに凡ての國に於て其の國の幸福を妨ぐる唯一の敵がある。それは罪である。罪即ち一國民の最も善良なる生涯を刺し貫く如き罪である。私は私が行きたる凡ての國々の青年が罪に誘はれて居る、委しく云へば彼等の身體を傷け、延いては彼等の國家を害する樣な事をするやうに誘はれてゐるといふ事を認めた。

凡ての青年は誘惑を受けるが、中にも學生は他の青年よりも一層強く誘惑を受くる事と思ふ。第一に青年は肉體上のあらゆる誘惑を受けるものであつて、此點に於ても學生は他の青年より更に強き誘惑を受くる。其の譯は主として學生は其の日常の生涯に於て不活潑に陷り易い傾きがあるからである。而して單に肉體上の誘惑のみでなく、更に恐るべき巧みなる誘惑が此等青年學生の心靈を擒にしやうと、不斷彼等の隙をねらつて居るのである。

若しも總ての國の青年一般に來る處の誘惑其物の種類をお問ひになるならば、次の如く答へる事が出來る。夫れは第一に凡ての不潔不品行なる行爲をなすやうに至らしむる誘惑であり、次に不攝生に至らしむる誘惑で、是れは悲しいことには多くの國に於て學生間に段々と蔓延りつゝあるのであるが、それに次いでは不正直に至らしむる所の誘惑、次に高等敎育の眞正の目的を誤らしむる誘惑である。即ち敎育の眞の目的は世渡りの道を敎へ或は學者とならしむるといふのではなく、人を作る事である。然るに多くの學生が此の特權を捨てるのは考へ違ひである。次には智慧に誇るといふこと、是れも一の誘惑であつて屢々私共の思ふよりは一層恐るべき結果を來すものである。なぜならば此の誇りは全ての成長發達を止めるからである。最後に總て自然を超えて居るもの、殊に基督敎の主要なる事實を信じないといふ誘惑、是れ丈けが總ての誘惑といふ譯ではないが先づ青年間に最も多く認められるものである。

即ち私は世界中三十個以上の國々へ行つたけれども、何れの土地へ行つても學生間に最も普通なる誘惑は如上の六つであるといふ事が出來るやうに思ふ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

□青年に必ず來る女色の誘惑

斯の如き有樣であるから、今日青年が自分の力で其身を清淨に保ち、神の支配の下に立ち、或は神に近づきつゝある生涯を送るといふやうなことは、到底望まれぬ事であつて、諸君も明かに認證せらるゝ事實であらう。故に此の誘惑に惱まされて居る學生に、充分なる同情を表する事の出來る爲に、尚又私共が私を合せて此の誘惑に打勝つて之れを免かるゝことの出來る爲に、時間の許す限り此の問題を充分に研究したいと思ふ。

私は第一に不品行に至らしむるの誘惑より始めようと思ふが、之れは何れの國へ行つても青年間に最も普通に在る所の誘惑である。若しも諸君が私の前に血あり肉ある一青年を示さるゝならば、私は直に不品行に陷らんとして居る一青年を諸君に示すことが出來る。世に惡魔なるものがあつて、人の肉體を時々誘惑することがあるとするならば、最も強き慾望殊に最も神聖といはれる情慾なるものに對して、何等の誘惑をも爲さぬといふことは最も不條理なることであると思ふ。

私が不潔なる行爲に至らしむる誘惑といふのは、即ち第一女色に溺るゝ事とか、手淫或は男色を行ふ事、或は汚れた事に心を用ひ汚れたる想像をなし、汚れた言を口にするといふやうな、かゝる事柄を總て含むのである。故に私が他の人の云はぬやうな事をも憚らずして諸君の前に申述ぶるのは、私の青年に對する深き愛ひで、又一には此の誘惑に打ち敗くることによりて恐るべき結果を來した事を目擊したからであつた。更に進んでは一個人及び一家族の敵に止まらずして一國の敵たる此の誘惑と戰はんが爲めに、諸君と協力したいと思ふにつけて憚らずして申述ぶる次第である。

□不品行の及ぼす肉體上の遺傳

第一に諸君と共に考へて見たいのは、不潔なる行爲は人の肉體を害するといふ事である。是は私一個の考ではない。私は總ての國の最も有名なる且つ尊敬すべき醫師に聞いたが、それ等の人が申すのに、自分共の許へ診察を乞ひに來る大概の青年の疾病は、大抵不潔なる行爲の結果として發つて居る物であるといふ事である。抑々人間の肉體が遺傳する所の疾病の中で最も忌むべきものは皆不潔なる行爲の結果として生ずるものである。此人間の肉體が遺傳するといふ言葉は實に適當して居る。即ち不品行の結果として生ずる所の疾病は無邪氣な子孫、即ち三代四代の後に至つても顯れるからである。彼の無邪氣なる子供の身體に三代も四代も前の先祖が犯したる報ひとして、其の幼き肉體に怖ろしき印の刻まれて居るのを見るほど哀れなる有樣が又とあらうか。實に此の不品行の結果は恐ろしきもので、此事に就て卓見ある一人の醫師が私に向つて、不品行の結果として斯の如き現象が生ずるといふことは、恐らくは結婚の神聖を保護せんとする天の配劑であると申された。是實に斯る忌はしき病のみならず、我々日常憚らずして語るやうな普通の疾病も青年にあつては大抵不品行の結果である。さなくとも不潔なることを云ひ、又之れを爲せば益々惡しくなるものである。次に不潔なる行爲は人の肉體を弱め、以つて疾病に對する抵抗力を失はしむるものであるといふことを記憶せねばならぬ。世の青年の中には私に向ひ、自分は隨分放蕩と云へるやうな行爲をしないではないけれども、自分はさういふ事をしない人に比べて見ても、少しは健康の點に於ては異つて居らぬことを感ずるといふ人もあるが、私は實に爾ういふ事を申す青年を憐れむのである。

私が嘗て濠洲から支那へ參る途中に於て聞いたことだが、東印度の一島に棲息する一種の小蟲は、建物の重なる柱の中に喰入つて生活をなし、永い年月の中には漸次柱の中を刳抜いてしまふ、外からは少しも分らぬけれども、日本で云へば大黑柱ともいふべき物の中が空虛になつて了ふから、想はざる時に其家の屋根が

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

落ち來るといふことである。恰も此蟲の爲めに家の倒るゝが如く、世の青年は不潔なる行爲によつて必ず其身を斃すことは疑を容れない。併しながら青年が不潔なる行爲をして居ても、一時は自ら其害の程を覺らず又是れは友人にも分らぬものであらうが、他日其青年が將に大に蓄積したる力を要する時、或は外患に對して抵抗力を要する時、或は社會に立つて智力體力を要する時に、其力が少しもないのである。是れは何故であるか、卽ち不潔なる行爲の結果として、其骨は青年時代の罪を以て充されて居るから、其の身體は卵の殼の如くに容易く碎けてしまふのである。甞て一人の知名なる醫師が私に向つて、單に不潔なる事を考へるだけでも人の肉體を弱くすると申した。私は不審に思つて何故であるかと尋ねました。すると答へて、其の肉體を害することは、單に精液の無くなることではない、却つて是れが多く造らるゝ事であると申された。私は其の意味が分らぬ故どうか其の理由を明かに示して下さいと云つたら、醫師が重れて答へるのには、身體の衰弱を來すのは必ずしも精液損失の結果ではなくて、過度に造られ、從つて遺漏を來すの結果である。而して此事はその神經系統に異狀を呈したる結果である。又此の神經系統に異狀を呈するのは不潔なる思想が腦髓の組織を變じた結果であるといはれた。故に不潔なる事を考へるのは自分の身を害する處のもの、卽ち己が敵を我身の内に作りつゝあるものであることを覺悟しなければならぬ。

□不品行の精神に及ぼす影響

第二に諸君と共に考へたいことは不潔なる行爲は、人の心を害するといふ事である。今思想のある諸君の前に立つて總て肉體に害ある所のものが、人の心に害のあるものであるといふことは、一言の證明をも要しないと考へる。此の問題に就ては此邊で止めて置かうと思ふが、併し私は又不潔なる行爲は啻に心を害するのみならず、又之れを碎き之を殺して了ふものであるといふ恐ろしき事實を思ひ出したのである。私が大學校で社會學を研究して居りましたときに、何時でも病院であるとか瘋癲病院であるとか、或は感化院のやうな所へ行つて、其處へ連れて來られる人は皆如何いふ事の結果であるか、又其行爲が其人の身に如何なる結果を來して居るかといふことを研究したが、或時二百人ばかりも患者を收容して居る瘋癲病院へ行つて、實に悲慘に堪えない光景を見た。私は今に至るも決して夫れを忘るゝことが出來ない。而して若し神が此光景を忘れしめ給はぬならば、自分は此事に就いて常に語らずには止まぬ決心である。其の瘋癲病院の長い廊下をずつと通つて見ると、兩側の室內に收容されて居る者は何れも不品行の結果此所に連れて來られたもので、其時案內者が一人の患者を指していふのに、彼所に居るのは此の國でも名高き家の息子であるが、三十歲から四十歲に至るまでに、其身を損うてしまひ、遂に此處へ連れて來られたので、其の原因は未だ青年であつた時に、不潔なる行爲をしたからであると申された。又他の一人の患者を指していふには、彼はこの國の辯護士ともなるべき者であつたが、まだ時代を終らぬ內に此處へ連れて來られたが、是も亦不品行が原因であると云はれた。實に其の患者の有樣を見るに、私が長き旅行の間に目擊した汽車の上の負傷だとか、或は古武士の物語つた戰場の光景にも增して實に悲慘ならのであつた。是實に永久に死に失せたる心の墳墓である。斯く述べ來れば諸君の內には、或は私が餘り大きく云ひ過ぎるとか、又は誇大に申すとかいふやうな感があるかも知れぬが、若し諸君が其の慘狀を實見せらるゝならば、必ずや私の言の誇大なるざることを諒解せらるゝに違ひない。卽ち不品行の結果は實に此の位怖しいものであるといふことを、實際に見出さるゝであらうと思ふ。

□見ざる日はざる聞かざる

次に不潔なる行爲は人の心を汚し、何時も附纏ふものであるといふことを、忘れてはならぬ。我等の生涯に於て最も悲むべきことは、少年の時見まじき事聞くまじきことが其の腦髓に映ずることである。世の中に子供の腦髓ほど感覺の銳いものはない。而して一旦子供の腦髓に不潔なるものが映ずるならば、其人は成長の後に至つても容易に之れを脫却することが出來ぬ。

私の友人の一人が甞て其の卒業したる學校へ參つた時に、五十年ほど前に卒業したといふ一の老人が其處へ來て居つて、二人か共に談話をしながらとある所に參ると、其の老人は不意に其足を擧げて地を踏んだから、私の友人が何故に斯樣な事をするかと云つて尋ねた處が、老人の答へに、自分は今より五十年以上も前

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

に此場所で最も汚はしい話を聞いた。其汚はしい考が今に忘るゝことが出來ず、故郷の學校の感深き景色を見る間にも此の汚はしき話を思ひ出すと申したさうである。彼の聖人オーガスチンが、誘惑の歴史即ち經路を四個の言を以て記述して居るが、青年たる者は之を記憶しておけば益ある事と思ふ。即ち「一見、一觀、一惑、一落」といふのである。是れは人が見るべからざる物を一目見て、心の中に考へて居る間に、段々と一の繪が描かれて來るやうになり、それから其繪に因て自分が惑はされ、是れは愉快だ、是れは好い慰みだと思つて居ると忽ちにして墮落が到るのである。私が考へるのに、此の四者の中第三と第四の間にて之を裁ち斷る人もあり、又は第二と第三の間にて之れを止めてしまふ人もあるが、併しながら、第一の見るといふ事から、第二の心に描くといふ迄の間にて之を止めることの出來る者は一人もないと思ふ。其人の自身の力にて之れを爲し得た者は一人もないのである。故に自分の身を全うして最も尊き者に爲さんとする青年は、其の目にし耳にする所のものに大なる注意を加へねばならぬ。彼の日光の美麗なる社殿の内に斯ういふ事が作つてあつた。「見ざる日はざる聞かざる」と、之れを諸君が心に牢記して、誘惑に出會ふた時實行せられん事を望む。

不潔なる事の書いてある小説を讀み、汚れたる繪畫寫眞の様なものを見或は汚れたる情話などに其席を去ることなくして耳を傾くるとか、途ゆく女を見て戀々として居るとか、室内閑居の時椅子に寄凭つて不潔なる空想に耽つて居るとか、夜半寢床の中にあつて或はまた朝未だ充分に目の覺めぬ危險なる時、心のうちに不潔卑猥なる事を考ふる者は實に之れ其身の危害を犯して之れを爲してゐるのである。是れ其精神の中に汚れたる繪を描きつゝあるのであつて、其繪は何時までも其人に附纏ふのである。若しもこの鎖が切斷せられなければ、其汚れたる繪は永遠無窮に其人より離るゝことはないのである。諸君が唯一度これを考へただけの事であるならば、其印象は諸君の腦髓に餘り深く刻み込まれないであらうが、若しも其事が百度も繰返して考へるならば、其次の百一度目には實に容易く考へらるゝやうになる。是れ恰かもその腦髓組織の中に一の細き路が作られたやうなものである。而して之を千度も考へれば終に其腦髓の中に大道が築かれて恐るべき誘惑が自由自在に横行闊歩するに至るのである。事茲に至つては最早其の誘惑に抵抗することは出來ない、人力を以て之を止むることは到底出來ないやうになるのである。凡そ人はその思想より以上に達することは出來ない、立派な思想なくして立派な人となり、又は考へを愼ますして高尚なる人となることは出來ないのである。

□不品行ならずば更に成功

第三に諸君と共に考へて見たいのは不潔卑猥なる行爲は人の立派なる成功に害を與へるといふ事である。併し乍ら或人はいふであらう、自分は立派に成功してゐる人を知つてゐるが、而も其人は不品行な事をなしてゐる。然らば不品行であつても尚且つ成功するではないかと。私も亦さういふ人のある事を知つてゐる。私は其樣な人を見る毎に斯う思ふ。若しも其樣な人が不品行でなかつたならば、其上どの位成功し、青年に好き模範を示し、且つ其の國に何程の益をなしたかといふ事である。どうか私の意味を誤解されぬやう願ふ。私の點はこゝである、此等不品行の人々は不品行でなかつたとして得らるゝ如き成功を果して得て居らうか。私は之に答へて否といふ。いま何故であるかといふ事に就て、青年諸君が必ず領かるゝやうな理由を一二擧て見いと思ふ。(つゞく)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

娘强盜の犯罪と其裁判

法學博士　大場茂馬

□少年裁判法の必要

少年と言はず少女と言はず、凡て年少者は心身共に定まらず、生育發達の途にあるものであるから、其行爲の如きも普通成熟者の眼より見れば、實に意想外な行爲をも敢てする事がある。其れに好箇の實例を偶然に示したものは、最近淺草に起つた少女强盜である。未だ肩揚も去れぬ最も恥らふ若々しい少女が、鋏を提げ、覆面以て他家に押入り、家人を脅威し、悠々金品を强奪し去るとは什麽しても普通常識者の考へ及ぶ所ではないのである。斯の如きは單に一例に過ぎざれど我が現行法は、此種の犯罪者を如何に裁判し如何に罰せんとするか。それは自ら既に定むる所の法規はありと雖も、其の條文たるや粗漏極まるもので、法律上の取殘されたる問題であると同時に、興味ある社會問題である。

大凡人は七歳乃至十歳にして、既に犯罪能力は有り得る。友達のものを盜んではならぬ、他人を打つたり擲いたりする事は惡い事である、といふ意識は有り得る。即ち純理から云ふと、是非の辨別は相當に有るのである。然らば法の精神からいふて之れを罰すべきであるか、或は心身定まらず生育の發達にあるものであるが故に罰すべからざるものであるか、之れが立法の原則からいふと論議の別るる所で、我が國現行法の如きは尙多大の缺陷のあるを免れざる所である、今我が現行法を見ると刑法の第四十一條に

十四歳に滿たざるものゝ行爲は之れを罰せず

又第三十九條に

心神喪失者の行爲は之れを罰せず

とある。之れに依つて見れば、十四歳以下の行爲は、如何に成年者の犯罪行爲と同樣種類であつても、之れを心神喪失者と同樣に見做して處罰しないのである。それと同時に十四歳以上の人の行爲は之れを罰する、それが成年者であらうが未成年者であらうが未成年者でなからうが問ふ所はないのである。即ち我が現行法に大缺陷のあるは此の點である。十四歳より成年期迄の中間年少者に對しては、特別なる刑の定量はないのである。是れは世界各國中唯一我が國あるのみで、他の歐米諸國では、皆此の中間年少者の犯罪行爲に對しては、確然たる處罰法があつて、成年者とは全然別取扱ひになつて居る。近來我國にても、此の缺陷を覺えて、少年裁判所法を新しく制定せんとの議がある所以である。

□成熟期に於ける心理

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

茲に諸外國の律例を見るに、少年少女の犯罪行爲に關しては(一)感化(二)强制特殊敎育(三)救護制度(四)治療の方法及び(五)違警罪の處分方法を執つて居る。加之、其の未成年者の行爲を處分するに當つては、醫師、敎育家又は特殊の感化事業從事者等を必ず立合せて其の處分方法を決するのである十四歲以上と雖も二十歲に達せざる法律上の未成年者は、矢張り心身定まらず生育發達の中にある者であるから、其の行爲も意想外の事を演る。而して其の行爲は必ず不正則である成立が成年者とは異る。卽ち心理狀態も未熟であるから、外來の刺戟を受ける事も、亦其の感受の狀態が異る。妙齡十七歲の花の少女が覆面鉞を振りかざして他人を脅威し、金品を奪ふなどといふ惡戲から出た眞のやうな行爲も由つて起るのである。況や青春期にあつて、美しい衣類も着たし、若々しい男の歡心を買つて觀たい、との情熱が猛烈なる時に於いてをやである。卽ち斯の如きは氣狂ひと非氣狂ひの中間にあるやうなもので、どうしても有罪か無罪かを決定する其中途にあるものと見るべきである。卽ち少年者處分法(所罰法にあらず)の制定されねばならぬ所以である。

□周圍の人をも所罰せよ

終りに附加したきは少年少女の行爲を裁判するに當つて其の行爲者敢て(犯罪者と言はず)の四周を考察する事である。例へば少年といへ少女といへ、其の兩親なり兄姉なりが其の行爲を助長、又は幇助したる場合、或は左樣ならしめたる證跡ある場合は、其の本人のみならず是等の四圍の人を所罰する事を制定する事が必要である。勿論子の利益を思はぬものなしとは雖も、青春期に夜遲く迄娘の外出を許すとか、或は危險なる男に近づいても之れを取締らぬが如きは、其の罪親に歸するものとして罰するのである。斯くして少年少女の行爲に對する法の目的は達せらるゝものと思ふ。

娘强盗の動機

法學博士　小河游次郎

犯罪には(一)生理組織の變態から來るもの(二)遺傳或は病的のもの(三)境遇の爲に起るものと三つ或は此の全部又は二つを組合して來るものとあるがおちよの場合は其性行や自白から見て境遇の感化壓迫からと言つて可い。

彼女は家庭や周圍の感化で善惡の差別に對する意識が缺けてゐる。特に寒心に堪へないのは彼女が講談豆本の愛讀者だつた一事で、此事は豫てから自分は現代の一大問題と思つてゐたので最早識者の忽諸にす可らざる問題と思ふ。私は惡書展覽會を開いて父兄達の參考に供したいとさへ思つてゐる。昨秋大阪で十一歲の少年が豆本の內容を眞似て少女を絞殺した事件が起つて其少年は感化院に收容されたが今では全く純眞な少年に還つてゐる。おちよは此少年を引伸した樣なものである、周圍の人達が少しく注意してやれば良くない心が直るも直らぬも問題でない。彼女の周圍が彼女に虛榮を敎へ境遇が虛榮の滿足を壓迫し敎育の不足不徹底が遂に犯罪に至らしめたもの、斯くの如きは境遇の罪社會の責任である。尙彼女が成熟期の女であつた事は特に考へればならぬ、女は思慮の充分ならぬもの「よく女だてらに大膽な」と言ふが夫は大間違でイザさなれば女はより大膽である、重罪犯には女が多い、成熟期は生涯を通じて最も精神の動搖する危機である少膽な女が最も大膽に前後の見境もなくなるのは此時であるさ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

織田氏と明智氏の家庭

衆議院議員　福本日南

■信長は戰爭時代に於ける政略——結婚の代表者で家族も皆酷い■

戰國時代には、結婚の如きも、父兄の政略的に行はれたもので、殊に大小名から以上の家庭に於ては、此政略結婚が盛んに行はれたのである。其代表的人物として織田信長と、それに對象して明智光秀の家庭とを比較して見たいと思ふ。

信長は元より一代の英雄であつた、が其の眼中たゞ政略あるのみと云つて可い程で、夫人を迎へるに先づ自己の政略からして、當時威を四隣に振つた美濃の豪族齋藤道三の娘を選び、而も自分の權勢漸く伸ぶに伴れて、姻戚として自分の後援たらしめた其齋藤を亡ぼさんと企つるに至つたのである。彼は何日まで經つても夫人と同棲しないで、深夜夫人の寢息を窺つては火の見櫓に上り、齋藤家の家臣が返り忠の會圖に擧ぐる烽火を見やうとしてゐたといふ位で、家庭に何の和樂もなく、却つて夫人を犧牲にして齋藤家を亡ぼした。更にまた近國淺井長政を討たんが爲めに、呉れて置いた妹小谷の方を取戻して長政を亡ぼした。妹小谷の方も可成り我儘な女で、普通の女ならば夫と共に死ぬか、兄の無法を憤つて尼にでもなるべき處だのに、涙一滴雫さず、時の好男子として聞た柴田勝家に嫁したいと自分から申し出た程であつた。尤も勝家が賤ケ嶽の一戰に敗衂して北の庄に自殺する時は夫と死を共にしたが彼の淀君として有名な茶々姫を始め、小身者と驅落した崇嚴院(達姫)などは皆信長や小谷の方の感化を受けたものである。淀君は一面に於て確に偉かつたが、可なり評判の惡い人である。この事は人口に膾炙してゐる事で、今更申す迄もない。併し一般史家が淀君の死を三十九歳としてゐるが、考證によると四十七八歳であつたと思はれる。然るに之れを三十九歳にしたについては、從來の史家の曲筆が手傳つてゐるのは無論だが、絶世の美人であつた丈けに、末路の悲劇を修飾する爲めに、年齢を若くして戯曲化したものであらうと思はれる。從つて其性行に就ても疑はしいものが多かつた。

■當時の主從關係は今日の政黨——光秀殺逆の原因と其の家庭■

織田氏の家庭に較ぶれば、明智氏の家庭は見上げたものであつた。一體主君信長を殺した故を以て、史家が直に逆臣傳中に入れるといふのは考へ物だと思ふ。

戰國時代は自分の好きな君臣を互に選び合つてゐた時代であるから、其主從關係は申さば今日の政黨關係のやうなものであつた。今日の政黨の首領と黨員とは當時の主從關係と酷似してゐる。此の點

から見ても、光秀の叛逆の理由は認めることが出來ると思ふ。世間にもよく知られてゐる通り、光秀の殺意を生じたのは一に繫つて信長の横暴不遜にあつて、其責め自らにあると云へる。光秀が自分の母を人質にしてまで丹波の豪族某を助けやうとしたには不拘、信長は之を顧みなかつたので、遂に母は敵軍の爲めに無慘なる殺戮に會つた爲め彼は母の仇として信長を亡ぼさうとするに至つたのである。

加之、明智氏夫妻の家庭生活は、彼が根から惡人でも、八逆の大罪を犯す樣な叛臣でなかつたことを證據立つるものがあるのである。嘗て光秀が越前朝倉に仕へて土岐十兵衛と云つた三十八歳の時の大晦日の晩である、朝賀の仕度にと鏡に向つて鬚を剃つてゐた。然るに端なくも鬢毛の中に二三本の白髮の交つてゐるのに氣が附いて、光秀は驚いたのである。そして僅に五斗米の爲めに既に白髮に垂んたる己が意氣地なさを恥ぢ、去つて他の英雄の下に身を起さん事を夫人に謀つた。夫人も名族の出だけあつて、夫君の志を助けて、早速古道具屋を呼んで家具家財を仕末して引上げたといふ事である。その時迎年の用意に搗いた餅の處分には流石賢夫人の聞え高き妻女も迷つたと見え、之を光秀に計ると、お歳暮に同僚の者に頒てやつたらといふ事だつた。

■夫人の貞淑夫の爲に黑髮を斷つ

——光秀感激して妻に貞潔を誓ふ■

それから暫くの間光秀は浪人生活をなし尾羽打枯らして可なり辛慘を嘗た。而も洗ふが如き赤貧の絶頂に達してゐた或日の事、三人の來客があつて、談偶々興に入り、主客とも夢中になつて食事時を過して了つた、光秀は勝手許に居る夫人と眼を見合はして、進めるに物なきを歎じた。然るに間もなく夫人は何處からか時のもの丶酒肴を調へて來たが何故か夫人は酒間の斡旋にも姉樣冠りの手拭を取らなかつた。宴果て丶の後光秀は何處から金を都合したのかと聞いたが、夫人は笑つて答へなかつた。暫くして光秀はまた酒間の斡旋に何故手拭を取らなかつたかと尋ねたが、やはり夫人は笑つたきり何とも曰はなかつた。が手拭を外した姿を見ると婦人の最も大切とする丈なす美事の黑髮は惜氣もなく根元から切られてゐたのであつた。

小さいお辨當

＝上級生程小さい＝後で澤山食べる

▼女學校の統計

大阪府立市岡高等女學校で生徒がお晝に學校で食べるお辨當の重量をはからせて見て、全校五百餘人の答案(?)を出させて見たのですが、先づ各自が持つてきたお辨當の風呂敷包のまゝ秤り、次に御菜に中身を食べた後の辨當がらを量らせました、その結果中身卽ち御飯と副食物の重さが七十匁から百匁迄のが普通でした、一等大食と云ふので百四十九匁で平均は八十五匁二分と云ふのでした。

年級別にして見ますと、一年級の最少は四十五匁一分最大は百四十九匁平均が九十一匁三分、二年級の最少は四十五匁最大は百四十三匁で平均八十五匁三分、三年級の最小四十匁最大百廿四匁平均八十匁三分、四年級は最少四十匁五分最大百四十六匁平均して八十三匁一分、結局三年級が一等總てに於て少い事になります。身體の發育の最も盛んであるべき十六七、八乃至十九と云ふ年級になつてなぜお晝御飯がこんなに少いか、同校では晝飯は教師が生徒と會食する事になつて居る食事終りの鐘は鳴さない事にしてあつて、大抵皆が食べ終つた頃に外に出ると云ふのだから、大して急いで食べ終らなくても好いのです。全く三四年頃になると大きい御辨當が恥しいのでせう、と云つて運動となれば、お互に中々熱心で猛烈なものですから、あの少量でよく辛棒が出來たものだと、甚だしい者で、學校からかへると直ぐ「お腹が空いた」と來る、中には御飯を澤山食べる人があるさうだ、そして一二時間立つて夕飯時には必ず家人と共にまた食べると云ふ調子だといふ。

光秀夫人は絶世の美人と謳はれた人であつたゞけに、光秀の愛着の念も深かつたに相違ない、されば光秀は妻の斷髮については、一種の嫉妬心さへ起して默つて居れず問ひ訊すと、夫人は『今日は貴下にとつて大切のお客樣ですから髢屋に行つてお金の代に致しました……』と夫人は笑ひ乍ら答へた。光秀は驚愕してさてはと今日の意外な饗應が分り、黯然とした。そして感激の餘、假令志を得て天下に號令するとも侍女妾婦の輩を近づけまいといふ起請文を書いて、夫人に與へたといふ。來客は光秀が出世の好き音信を齎らした人であつたのである。

■信長の家庭の感化淀君を出し
——光秀の感化忠興夫人を出す■

また近江の唐崎の松が枯れて、光秀が植え換へたのがあつたが、光秀は其時松に寄せて夫人に對する愛を謳つてゐる。逸話はまだ澤山あるが、夫妻の愛情の審であつたことは、到底織田氏夫妻の企て及ぶ處でない。斯うした人が皆な殺逆を好むといふ事は何うしても考へられないではないか、從つてその感化は子女の上に及び、一門の子弟は歷史の上に光つてゐる。

今織田家に於ける淀君に好對照をなす人を擧げれば、彼の細川忠興夫人の如き、全く光秀夫妻の優れた素質と感化とを承け繼いでゐる。夫人は十六歲にして忠興に嫁した人で、細川家では當時光秀の聲望の高かつた折の事とて、可なり大切にしたのであつたが、越えて三年光秀の叛逆事件起るや、罪三族に及ぶといふので、忠興は之を丹後の三子野の山中に流謫同樣の取扱をしなければならぬ事となつた。未だ二十歲といふうら若い身を三子野の山中に狐猿を友として、三年の間謹愼してゐた夫人は、侍女と共に佛敎の研究三昧に入り、その蘊奧を極められた。日本宗敎史の上に伽羅奢姬として異彩を放つたのはその後の事である。

當時の日本の基督敎信者で、黑田如水や織田信長まで感化を與へた人に高山右近といふがあつた。忠興の口から右近の噂など聞いてゐた夫人は、自分の宗敎上の疑義を質す爲めにキリスト敎徒に會つて見たいと思つてゐた。當時大阪には宣敎師の作つた敎會があつた。天正十五年七月、丁度お盆の日に、幽閉の身故夫人は微行して大阪の敎會を訪ふた、そして立ろに宗敎上の大疑團をさらけ出して其の氷解を得、洗禮まで受けやうとするに至つたが、夫人を追跡して來た細川家の家臣共に妨げられて果さなかつたけれども、夫人と共にキリスト敎を學んだマリアといふ侍女があつて夫人は其のマリアの手を經て遂に洗禮を受けたのである。そして自分の家に五人の宣敎師を雇入れて敎義を傳道させたり、躬ら孤兒院を建てゝ遺孤を收容した。

一外人の著せる日本宗敎史によると、忠興夫人は羅典葡萄牙兩國語に精通してゐたといふ。文祿慶長頃の幽囚の身の一婦人にして、此事あるは、英語すら碌に通ずることの出來ない大正の男子をして後へに瞠若たらしむるではないか、況して其の德操の高く芳しき點に於ておやである。伽羅奢姬に就ては猶多く語るべきであるが、要するに織田明智二氏家庭の比較は、我々に何等かの敎訓を物語つてゐると思ふ。(文責記者)

◉市內待合の數

高等內侍の巢窟と唱えた、濱町蠣殼界隈、私娼退治の大斧に會つて小待合が次第に倒れて來たが昨今に至つて營業を出願するもの相踵ぎ、營業してゐる向きは盛んに家屋の建增をするといふ大景氣である。五月迄の調査に據ると、久松署管內の待合二百九十一、藝妓屋三百三十七、藝妓八百八十人とある。私娼征伐の手が緩んだのか、單に久松署管內ばかりでなく築地署管內も殖えて來て待合二百十五、藝妓屋三百九十七、藝妓一千八十人に上つてる、市內全體からいふと、待合が一千三百四十八といふ多數に上り、それがまだ增える一方だといふ、注目すべき事態である。

◉遊廓設置運動

香川縣觀音寺町に遊廓設置問題は、十四五年前盛に運動するものありしが、遊廓廢止說ありし折柄銓衡の運びに至らず遂に立消えとなりしが、近頃觀音寺の發展するに伴ひ、私娼撲滅の策として遊廓の設置說又復再燃、發起者に更に有志數名加はり盛んに運動しつゝありと。

◉遊廓移轉運動

仙臺市は近來の發展によりて、現遊廓が市內の繁華な要地となり來りたる爲め、移轉運動盛んに起りつゝあり。

同縣下鹽釜町に於ても其飛火か、移轉運動起りたるが、同地は仙臺の如く一廓をなさず市內に散在すといふ、何れにしても百尺竿頭一步を進めて有志の廢止運動を熱望す。

咄 風教の賊

昨日曜の安息日に於いて、多摩川の清流に棹さしつゝ、衆目環視の間に、臆面もなく成金流の濁遊を試みた一群があつた、而して此群の中に一際目立つたのが、駐露大使たる内田康哉子と、參謀次長たる田中義一中將とで、東道の主人公と覺しきは例の船成金の山下龜三郎氏であつた。それのみならず、嚴しい此れ等の人々を取卷いて、脂粉の臭紛々たる阿嬌連が加はつて居たのは、一日の清遊を目的とせる幾多遊覽者の目を惹いて、或は羨望せしめ、或は唾棄せしめずには置かなかつた。

船成金たる當今の分限者が其私財を抛つて豪遊を試むることに、何の不思議もないと云へばそれ迄の話である。併し殷の紂王や、隋の揚帝の試みに一代の豪華風流が、其の人の財帑と任意とを以て行つたが故に敢て第三者の容喙を許さなかつたとしても、當時の風教問題として之を見れば、遂に國を亡し、身を亡し、併せて社會の風敎を紊した重大事件であつた此意味に於て屑々たる一船成金の豪遊も、其時、其場合に於て、之を社會の風敎問題として取扱はねばならぬ。

そも〳〵當日賓客の一人たる田中中將は、如何なる地位の人であるか、彼は最近全國青年團の統一を高唱し、剛健質實の氣風を全國民の間に鼓吹するを以て、當今の最大急務なりと主張する人ではないか、青年團の統一持導も宜しい。剛健質實の氣風を宣傳鼓

家庭の和樂(二)

東洋大學敎授 高島平三郎

思遣りが如何に人の心を動かすことの大なるかは前にも述べた通りであるが、一體思遣りといふものはそれを亨ける人ばかりでなく、其思遣る人の心も善い方面に導かれるものであるといふ事を我々は實見する。道德の生れるのは卽ち玆からであつて、人を思遣りする心が向上すれば、其人は自づと道德心がそれに伴れて發達して行くことになるのである。よく世間で道德を向上せしめなければならぬ、發達させなければならぬといふ事を耳にするけれども、其道德の根底となる可き點に就ては甚だ敎へる處が鮮ないやうに見受けられる。私は常に此問題に就て考へてゐるが是れは如何しても同情心を高めることが先決問題であると思ふ。同情心さへ高めて行けば、如何に他人に迷惑を掛けやうとしたところで出來るものではないから、思遣りといふことに就ては十分留意して欲しいのである。

□恐らくは世の中で思遣りの強い=のは兒に對する親の心である□

親は我子の爲めに何物をも犠牲することを厭はない大切な我身まで子の爲にならば亡くなつても宜いといふ程である。其思遣りの深さ加減は到底子を持つたことのない人の夢想だに及ばぬ程で、隨分物事の判つた人でも子に對しては一も二もなく馬鹿になつて了ふやうな例が多い。それ程子は可愛い者である。思遣りの深い相手である。昔から「親馬鹿チャンリン」杯といふが全く其の通りであつて、我々が日常見受ける處から云ふと「此子はお父さんより餘程悧口に出來た」と云はれると、親は自分の惡口を云はれるにも係はらずニヤ〳〵喜んでゐる。これなどは確に子に對する犠牲的愛情の然らしむるところで、若し之が赤の他人との比較でゞもあらうものならそれこそ大變な問題が惹起るのであるが、さうでないから洵に面白い處があると思ふ。

其昔、英吉利に這麽話がある。子供が窓下で遊んでゐた。何うした機か硝子に當つて面部に大怪我をしてワッと泣き出した。其泣聲に母親は驚いて飛んで來て見るとその始末なので、狂氣の如くなつて共に泣叫び乍ら、最寄の醫院へ擔込ん

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

吹することも亦大に贊成である。只剛健質實の氣風を鼓吹すべき地位にあつて、自ら浮華輕佻の成金輩と交度歡談し、衆人環視の前に其美酒を酌み、阿婦と戲るゝの醜態を演ずるは何事ぞや。僞善は如何なる場合にも罪惡である。然り或る場合に於ては惡事を惡事として竊に之を行ふものよりも其罪の重いこと勿論である中將の僞善は、今や亂臣賊子の社會を賊するよりも甚しいことを知らればならぬ。

曩には早川氏が報德宗を酒の肴にして地方官を饗應した。其當時も田中中將は確か報德翁を酒の肴とした一人であつた。彼は最早燕樂頹敗の常習者である。假りに一度は之を見逃すとも、再びし、三度するに及んでは斷じて寬假する譯には行かぬ。剛健なる全國の青年が起つて、先づ此の僞善者の面の皮を剝ぐのが、軈て我國風を振興する第一義ではあるまいか。

內田氏にしても其不謹愼は眞に驚き呆るゝの外ない所である。彼が列國大使に先んじて、逸早く露都を引揚げた進退の是非は今茲で云はぬとしても、苟も一國の重職に任ずる其地位に顧みれば、泰平の逸民として鼓腹するものゝ態度を學ぶべからざるは勿論である。國民は今や西部戰場に於ける聯合軍の危機を凝視して忡々たる憂心の禁じ難いものがあるの現瞬間ではないか、

然るに身國務の重責を荷へる內田子や、田中中將が、歐洲の天地に演出されつゝある血の河、屍の山を餘所に見て、悠々成金輩と行樂を共にするのは、餘りに心ない業である。

吾人は社會風敎の爲めには飽迄彼等を指彈糺明せればならぬ。（東京毎日）

だ。子供の重傷は容易に治らなかつた。

□母親の心痛は一通りではない‖
‖其枕邊に心血を注いで看護した□

而して神に祈つた『私の身體は何うなつても厭ひませんから。此子を何うにかして助けて下さいと』日毎夜毎の熱禱に子供の傷は漸次癒つて行つた。すると不思議なことには子供の怪我をした處と同じ處に、母親の皮膚に變な色が滲むで來た。それが日を經るに從つて漸次濃厚になつて、子供の傷がスッカリ快癒した時には、隨分酷い痘になつて了つたといふことである。佛蘭西語では之れをラポートの狀態と言つてゐる。事實の有無は別問題として、これ程親が子に對する思遣りといふものは强烈であつて、加も深遠なものなのである。若し此半分だけでも良いから他人に對して思遣ることが出來たなら、世の中の人情も又廣い意味の道德も餘程向上するであらうと思ふと、思遣りの如何に人生に取つて大切であるかを痛切に感じてならないのである。佛敎の慈悲、基督敎の愛は其根元を此處に發してゐる。

思遣りは悲痛に泣く人の心に温い感じを與へて、勇氣を鼓舞して遣るばかりでなく、其の人に取つては一生を通じて決して忘れることの能ない深い印象が刻付けられるものであるから、何人も此點に就て出來得るだけ留意して欲しいものである。

□隨分世の中には思遣りの薄い處から‖
‖種々樣々な悲劇が起る例は少くない□

彼の明治の兇賊として世に知られた、稻妻强盜坂本慶次郎なども、實はあの怖る可き犯罪を爲すに至つた其根本を訊ぬれば、矢張り思遣りの足らなかつたといふことに歸してゐたことが判る。彼は茨城縣新治郡の生れで、實家は相當の財產も在るし、又それ相應の家柄であるといふ。あれ丈の兇賊になる位であるから、素より善人ではなかつたであらうが、幼ない時には小學校へも眞面目に行き、親の言ふこともよく諾いたさうである。だから初めからあれだけの獰猛な心を持つてゐた譯ではないやうに思はれるのに、何うして斯る大兇賊になるに至つたかといふと、それは彼が青春の時、飲酒と娼婦の味を覺えるやうになつてからである若い男は誰しも墮落し易い。人間は此の若い時が一番大切な時期である。

現在でこそ風敎といふことが矢釜しくなつて、之れに對する樣々な新しい道德が振興しかゝつて來たやうであるが。

□其昔は風敎などゝいふ文字さへ‖
‖も碌々見受けることがなかつた□

今も尙ほ或地方へ行くと左樣な處があ

佛國巴里に於て

益富政助

巴里に入れるは四月十二日、其後二週間は米國駐屯軍を各地に慰問致し候。一昨夜、再び巴里に歸り來れるところに候。尙近々又英軍、佛軍、さては伊軍の慰問に出張する筈に候。至る處に於て多少の感想も有之候も、幷は後便に讓り申す可く候。

試みに巴里の停車場に暫し佇立すれば、日に幾千の避難者陸續として、戰地より逃れ來る群に會ふ。大人の面は愁の雲深きも、幼兒等は何の事やらもわからで、面白い遊山物見とでも思つてか、嬉々として貨車の中に戯れ（避難者は貨車にて輸送す）居る樣、却つて淚の種に候。巴里市內の道行く女の姿、四人に一人、時としては三人に一人は、喪裝せる婦人に御座候。輝ける花の都に戰の影、暗くうつれるを覺えて、うたてし。巴里に於ける獨逸飛行機及び、長距離砲の攻擊は數々にて候。其の殷々たる砲聲等には驚かさるる事少なからざるも、一行中未だ何人も、些の危險にも遭遇することなく、否、危險には度々遭遇しても幸にして事なきを得て、以つて平安を維持し得るは嗚呼何等の恩寵ぞや。實に感泣すべき事共に御座候。此分にては多分、無事使命を果し、互に喜べる面をもて、相見るの日も蓋し遠からざるべくと存候。

（後略）　（ヲ、ローレン號にて）

るといふ話であるが、昔は若い時代に一度だけは『居候』しても差支へないやうな有樣であつた。却つて『居候』を爲て見なければ世の中の味が判らぬ抔と、左右一種の誇であるかのやうに考へて居たものさへあつた。さういふ狀態であるから、『居候』することを何とも思はなかつた。又世間でも之を咎めないから『居候置いて合はず居て合はず』と知り乍らも、双方格別の苦痛もなしに精神物質ともに無頓着であつたが、今日では左樣な譯には行かないといふのは、時代が到底そんな無茶なことを赦さなくなつたからである。けれども今でも其跡を絕たずに、放蕩の果てが親に勘當を受け、詮方なしに親戚知己の處へ轉り込むといふ輩が稀れではないやうである。彼れも亦其一人であつた。實家の金を盜み出すことは勿論、緣戚知己を借り倒し不義理の所行は殆ど爲し盡した、そして漸く目が醒めて本心に立返り、實家へ戻つて眞面目に働かうと決心して或る冬の夜半、故鄉に立歸つて實家を訪れた。其時は最う家の人達は深い眠りに落ちてゐた。戶を叩いて慶次郎は最う別人になつたから、從來の罪は赦して下さいと願つた。けれども家の人達は其手に乘せられて何回となく失策をしてゐたから容易に戶を開けやうともしなかつた。彼は本心に立返つて奧底から迸しる眞の願を何回となく叫んで見たが、何うしても諾れて吳れない。で彼は『それでは家の中へだけでも入れて下さい。此の寒さで身體が凍りさうですから！』と折入つて賴むだが、それも諾れて下れなかつた。其處で彼れは最後に斯う云つたさうである。『それでは家の中へ入れて貰はなくても良いから、其代りお飯を食はせて下さい。私は善人になつて丁度今日で二日目であるが、其間少しも食はずに居るので腹が減つて仕方がない、せめてお飯だけでも』と願つたが其も之も更に諾れなかつたといふことである。彼は其の時衷心から淚を流して泣いたといふ。產みの親までが、私を見捨てゝ省みないのであるから、私の身は何

▲會費は前金といふ事になつてゐますから、成るべく督促を受けない樣御拂込を願ひます
▲會員を募集して一人でも多く入會せしめ會の盛大を期し、主張貫徹の爲に御盡力を乞ふ

うなつても構はぬといふ、自暴自棄が此の時ムラ〳〵と起つたさうである。此自暴自棄が彼をして、如斯大兇賊とならしめた動機となつたのである。若しも其際に母親がさういふ心でなしに、本心に立返つて眞面目にならうと決心して歸つて來た我子の心を見て取る事が出來たならば、

□或は世の人達を戦慄させるやうな兇‖暴なことを働かなかつたかも知れぬ□

見て取ることが出來ぬにしても、若し其母親の心が普通女の心であつたなら、お飯位を食べさせて遣つたに違ひない。此一寸した事が遂に稲妻強盗と稱さるゝ強盗、強姦、殺人等あると凡百悪事を働いて社會の人心を寒からしめたのである。

天網恢々疎にして洩らさずとやら、彼が散々に悪事を働き盡して捕はれの身となつて東京監獄に拘禁された翌日のことである。其の當時の藤村典獄が平素の通り獄屋を一々點檢して行つた。すると彼の獄の前を通つた時、一監視が獄を指して「此獄に入つて居るのが御承知の坂本慶次郎です」と告げた藤村典獄は告げられる儘に其獄中を覗くと、只さへ凍付くやうな冬の日に、身には一枚の薄物を纏つた許りの彼は、寒さへ耐へ兼ねると見え、獄屋の隅の方に寄添つて頻りに顫へて居るらしかつた。

□平生同情の心の富んだ藤村典獄は如何‖に世の中を驚愕せしめた大悪人とはいへ□

其有様を目當り見ては可哀相でならなかつた。「あー！嘸寒からう、日の當る處へ出して遣れ」と監視に命じたといふことである。すると此の言葉を聞えた彼は何う思つたものか、それ以來前とは別人のやうに穏やかになつて、一向前のやうに暴れなくなつた。監視は不審を抱き乍ら一層の注意を拂つて監視して居ると或時旦那々々と呼ぶので、受持の看守が行くと、彼は眼に涙を浮べて斯う語つたさうである。『私は最う決して暴れるやうな事は致しませんし、又たとひ什麼ことがあらうとも逃げやうとは思ひませんから、何卒御安心なすつて下さい。私はお存じの通り悪い事つて悪い事は、何でも爲つて來ましたが、之れが悪いとか善いとか心に染みた事はありませんでした殆ど無神經であつたやうです。だから實は此獄も晩かれ早かれ破つて逃走するか、さもなくば或隙に乘じて逃れるか、何れにせよ世の中へ出で最つとウンと悪い事をする考へでありました。今度で何回入獄し、又幾度逃走したか私も判然覺えて居りませんが、今度も逃走しやうと思へば何の造作もないのですけれども今度といふ今度は断じて逃走は致しません。逃走するどころか、

□之れで満足して喜んで何うにでも‖なりますから呉々も御安心なさい□

との事に看守は少からず面喰つたさうである。而して段々聞いて見ると、彼は何も涙を流し乍ら「實は彼の典獄さんの温いお情の言葉を聞いた時、自分の身體が溶けるかと思ふ位でした。だから私は最う之れで喜んで死にます。決して名殘りは惜くはありません。之れが若しも斯ういふ悪人にならなかつた前に、あのお情の萬分の一でも母親にあつたなら、今のやうな私にはならなかつたらうと思ひます。それが赤の他人、加之も人一倍憎まれる筈の私の身が、あのやうな温い同情を受けるといふ事を考へると、何にも殘惜い事はありません。」とサメ〲と泣伏したといふ。現在の現在まで警眼を放つて怠りなかつた監視も、思はず知らずに共に涙を流したさうである。

彼の罪は重い。其重い罪を爲さしめた原因は確に思遣りの足らなかつた事に歸着して居るのである。性來の悪人であつたら藤村典獄の同情も何の響も與へなかつたであらうが、僅に只一口の言葉をよく聞分けた彼の心には、人並の心と少しも變りはなかつた處があつたに違ひない

□彼の其以後に於ける動作は實に‖犯人として見上げた態度であつたといふ□

裁判では逐一其罪を自白し、断頭臺に上る時にも悠然として、少しも慄れ戦いたり、又は名殘惜しいやうな氣配は少しも見えなかつたさうであるが、それも之

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

れも本人自らが告白して居るやうに、「あア嘸寒からう。日の當る處へ出して遣れ」といふ同情のこもつた一言が、よく彼れをして斯くならしむるに至つたのである。實母と藤村典獄の對照は實に思遣りの忽せに出來ない事を瞭然と語つて居るのではあるまいか。思遣りはそれ程大切なものである。

よく姑と嫁の紛爭の絕えない事を耳にする。そして其原因を訊いて見ると、大抵は取るに足らぬやうな些細なことから初まるらしい。殊に男に取つては馬鹿々々しいやうな氣持ちがする。御本人同士の間では、其麼輕々しいことではないと云つてゐるが、成程男子は外部に多くの時を費やすから、在宅の時間が短い所爲もある。姑と嫁とは始終家庭に居るから、小さい事が積り積つて遂には破壞するのである。けれども如何に相手が憎いとした處で、人間は妙なもので何處かに懐しく思ふ心がある。其證據には其の問題が落着すると其後は非常に仲が睦しくなるのはそれである。而して又程經ると破壞すると云つたやうに何時も絕えないやうであるが、要するに之れも其一方の心の奥に潜んでゐる思遣りを口に出しさへすれば、何のこともないのであるのに、偖て思遣りを適當に言葉で表はれないから意地の惡い所ばかりを取つて、それを問題の要點として騷ぐといふ結果になるのである。若し適當に思遣りを出す言葉を見出せなかつたなら、

□相手が辛く當つて來た時〟

〝彼んな事を云つて居るもの〟□

あれで心の奥底には私を思遣るといふ處があるのだと思へばそれで良い。お互に斯ういふ心で居れで決して紛爭抔は起るものではないのである。若い嫁が私の處へ姑との問題に就き相談に來ることがある。私は一應其の紛爭を聞いた後で何時も坂本慶次郎の話をして、あなたの姑と坂本慶次郎とはどちらが惡いかと聞く。さうすると大抵額を顰めて『豈夫いくら意地が惡いたつてさうは酷くありません』といふ。で私は『それなら極めて容易いことである。坂本慶次郎の如うな人間でさへ『あアー嘸寒からう。日の當る處へ出して遣れ。』と云つた丈でスッカリ改心して嬉し涙を流して感謝をしたといふから、貴女が思遣りさへすれば決して問題は起る筈がない』と云ふと、それではと云つて其後二度と問題を持込んで來なくなる。私が姑と嫁との問題を解決する方法は只これ丈の話を聞かせる丈で、他に何の方法もない。だから理屈めいたこと抔は一寸も言はず、當らず觸らず圓滿な解決が着くといふ。人情の機微の如何に尊くして忽せに出來ないかゞ之れで判るのである。前述の通り、物事は金ばかりでは解決が出來ぬものであるから、お互に此の精神上の同情といふとが極めて大切であらうと思ふ（文責在記者）

□我が國に於けるローマ字雜誌□

第十三卷 ローマ字 第七號

□定價一部送料共十三錢

○七月號要目○一年分一圓四十錢□

□コンノート殿下を迎へ奉る……記者
□世界時事解說……向軍治
□ローマ字綴りと假名遣ひ……櫻根孝之進
□何故ローマ字を採用せればならないか……ランデス
□普通選擧の提唱……布施辰治
□Democracy の問題……福士幸次郎
□神戸クロニクル參觀記……加茂正一
□蛇の足他二篇……藤岡勝二
□世界の殿堂……石井柏亭
□A、B、C 學校（四）……高尾生譯
□德富氏の「新春」を讀む……鳥谷部陽太郎
□浮羽言葉（五）……宇元馨
□新しい小學讀本……近藤光次
□外國語の研究……向軍治

月刊 家庭のローマ字 可愛らしい子供の雜誌 定價一部七錢送料五厘

發行所 東京丸ノ内 ローマ字ひろめ會 振替東京九一一番 電話本局五二五六番

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

懸賞論文審査發表

豫て婦人矯風會に於て募集之なりし懸賞論文は、第一第三第七の各高等學校、慶應明治中央東洋の諸大學、及び京都同志社、大阪醫科大學、長崎高商、小樽高商、並びに青山女學院、神戸女學院、靜岡英和女學校、其他二三中學校生徒もありて、全國各方面より應募し來り、可なりの數に達しました爲め、審査に意外の時日を費す事となりましたが、今回愈々左の通り審査を了しました、發表は矯風會と交互にする事として、本誌は公娼の全廢より、矯風會は男女の貞操よりといふ事となりましたので、男女の貞操當選文は次號に於て發表致します。

安部磯雄氏、安井哲子、矢島楫子選

□男女の貞操

一等賞（金牌及五圓券）青山女學院 大橋房子
二等賞（銀牌及十圓券）慶應大學 西本量一
三等賞（銅牌及五圓券）第三高等學校 緒方準一
三等賞（銅牌及五圓券）法政大學 庄司作五郎

□公娼の全廢

一等賞（金牌及五圓券）同志社大學 福原勤之
一等賞（金牌及五圓券）大阪醫科大學 谷向茂唆
三等賞（銅牌及五圓券）第七高等學校 門田武雄

公娼の全廢

壹等 京都同志社大學 福原勤之

□公娼の發達及び意義

性慾と生活慾との二大慾望は、男女道徳意識の幼稚と相俟つて、人類社會に醜業婦なるものを生ぜしめた。此醜業婦の歴史は長く又波瀾も多い。各國ともその取締りと、處分とには、鮮なからぬ苦心をして來たが我國に於ても非常なる苦心の跡を德川時代の政治史に見ることが出來る。松平定信、水野忠邦等が苛酷と思はるゝ程の賣淫婦退治をしたが一時は影を隱してゐるけれど、少し當局の手が緩むと、又現れるといふ有樣で遂に不成功に終つた樣である。但し當時よりして遊廓のみは許されてゐたのであつて反動としてか、非常な繁昌を極めた。當時より、引き續いて、我國では公娼制度なるものを採り來つたのである。

元來、公娼といひ私娼といふものは政治上の分類であつて、公娼とは貸座敷業者よりして座敷を借り樓主と債權上の娼妓嫁契約を結び娼妓稼ぎ卽ち淫賣を働くものであつて警察犯處罰令に依つて、毫も罰されないのを稱し、此意味に於ける公娼以外の賣淫婦を私娼と稱し賣淫の事實が有れば警察犯處罰令に依つて嚴重に處罰せられるのである。換言すれば公娼は賣淫を公許せられ私娼は處罰せらるといふのである。

□政治と道德との關係

賣淫の善惡、このことは今更いふまでも無く不道德なことに違ひない。何と說明しても婦人貞操の蹂躙を公許するといふは秕政の甚だしいものであると云はなければならぬ。

元來政治と道德とは性質上必ず一致すべきもので決して相離れての存在は許されない。御誓文中の「天下の公道に基くべし」と宣らせ給ふたのも此事を意味せられたに外ならない。政府が風俗壞亂の故を以つて出版物繪畫等の發賣頒布を禁止するも此精神から出た消極的手段であり文敎の府を設けて各敎育機關を通じ倫理道德を國民に說くのも此が積極的精神の發露である。一言に盡せば政治

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は廣義の國民教育機關である。かく考へ來ると公娼制度は全然政治の本旨に合せない寧ろ善政の破壞物である。教育家が教壇に立つて如何に熱心に道徳を說き貞操を敎ふるも政府自らが賣淫を公許し、哀れなる婦人を男子の犠牲に委しつゝあるの事實に學生が想到するならば、其講義、訓話も所詮徒勞に期せざるを得ないのみならず政府の此豫備行爲は國民に徒らに僞善を敎ふるに過ぎない。右手に道徳を與へ左手に不道徳を敎ふるとはかゝる政府をこそ云ふべきであらう。かくあつては、國民教育の徹底的効果も風紀の振肅もまことに思ひもよらぬことだと嘆ずるの外はないのである

□官許の生む弊害

日本では古來の官尊民卑の餘弊か「官許」といふことは「善」と同意語であるかに解する一種の感情といふべきものが随分教育ある人士の中にもあることを見受ける。曾つてある小學校長と禁酒問題に就いて話したことがあつたが「酒は政府に税を出す様になつてゐるから飲めば寧ろ國家に忠義を盡すことになる」と校長が大眞面目で云つたのを記憶してゐる。こんな實例は少なくないといふことだが國民教育に重大な責任と力とを持つてゐる筈の小學校長からしてこれなのだから普通一般の國民の思想の程度も察するに難くはない。現に一知人が廓通ひをしてゐると聞いたのでその不心得を諌めたところが「政府の許すことをするのに何が惡いんだらう」と云つたことがあつた。實際人間は外のことならまだしも本能の要求などとなると少々良心が小言云つても少しでも口實があれば直ぐそれにかこつけて實行し勝ちのものだ。こんな時に「官許」といふことは此上ない口實だ。實際眞の政治ならばその許すことが國民の害になるといふ様なことの無いのを原則とするが故である。善良な有望な青年に口實まで與へて誘惑するといふ様な制度は、全然廢止せねばならぬ。廢止してこそ徹底的に教育が出來るのである。

□性慾は抑制するも害なし

かう云ふと世間では、それは實際を知らざる机上の空論である。元來理論と實際とは一致するに限つたものではないと云つて反對する人がある。自分は少なくとも人文發達の歴史の一端でも知つてゐる人なら理論と實際の不一致などは言ひ得ないと確信してゐるが假りに所謂實際家の實際上公娼全廢不可能であるといふ理由を聽いてみると實際家却つて實際を知らずといふ滑稽な事實を見出すのである。

彼等は第一に公娼は風俗上の秩序を保つ爲めに必要であるといふ。今一歩進めて言へば「人間の性慾は抑壓することが出來ない。だから公娼は獨身者にとつては此上ない安全辨の役をしてゐるものである。若し此安全辨を取除いたならば需要は直ちに私娼の増加を來し甚しきは姦通私通強姦といふ様な犯罪を多く惹起するであらう」といふのである。

けれ共私は此議論はその前提即ち「性慾は抑壓出來ない」といふ點に於て誤まつてゐると思ふ。但し此言葉は二様に解釋が出來る。一は性慾は全然抑壓し得ないといひ他は抑壓すれば出來るがさうすれば健康上有害であるが故にしてはいかぬといふ、前者は其人の教育の程度に依つても違ふだらうが少なくとも自己を犬猫と同一視しない限り言ひ得べきことでないと思ふ。人間の理性及び意志の力を信ずるものには肯定することの出來ない暴論である。然かし後者は醫學上の問題であつて門外漢の我々は云々する資格はないが近來では殆んどあらゆる專門學者が制慾無害說を主張し寧ろその衞生上有益なることをさへ主張してゐる樣である。京都大學の醫學博士松浦志太郎氏も、廓清第六卷第五號所載「永井博士の公娼論を評す」といふ論文に於て熱心にその無害說を主張し「未だ曾つて性慾を抑壓したが爲めにどんな病氣を發したとか大いに健康を害して不幸に陷つたとかいふ實例を見聞したことはない」と明言して居られる。反之性慾亂用の爲め慘めなる結果を來らしてゐる實例は我々が日常よく見聞することであつて今事々しく擧げるまでもないことである。してみれば抑壓して無害であるものを機關を設けて抑制させない樣にする必要は毫もない。況んや抑制して却つて有益であるといふに於ておやだ。

更に公娼は安全辨だといふ論があるが事實果して安全辨たるの務めをしてゐるかどうか頗る怪しいものである。これを事實に徴するに若し安全辨たるの實を擧げてゐるとすれば公娼の數は獨身者の數と釣合ひがとれて居らねばならぬ。然るに吉原遊廓の娼妓一人の一ケ月平均接客數を延人員で求めそれを各縣の娼妓數に乘じこれを各府縣の獨身者（十八才より五十五才までの男子）の數に比例して得たる伊藤江南氏の統計に依れば十五縣平均した結果獨身男子の九割三分は娼妓に接する能はざる勘定になつて、公娼が獨身者の性慾を洩らす安全辨たるの事實は毫も認むることが出來ない却つて道樂者（有妻者を含む）の遊戲慾に供せられつゝあるの反證を認めさせられる。（廓清第六卷第五號三三頁參照）

□廢娼後私娼が殖えるか

更に廢娼の結果、私娼及び風俗犯が増加するだらうといふ議論はその前提がかく否定された以上既にその論據を失つたものであるが假りに前提を眞なりとするも吾人の主張する公娼廢止が此結果をもたらすとは考へられない。吾人の今日の場合實際問題として主張するのは、娼婦を盡く根絶してしまへといふのではない所謂絶娼でなくて廢娼である。公娼を廢止せよといふのであつて賣淫婦を絶滅に歸せしめよといふのではない。極端に言つてしまへば政治の根本義に背きそれが種々な悪結果を來すが故に「公娼」の公を除つてしまへといふのである。今一歩進めて言へば公衆の眼の届かぬ場所に娼婦を隱してしまへといふのである。故に若し娼婦なければ生きてゆかれぬといふ人があればよろしくその隱れたる場所にある私娼に行くべし。何も公娼なるが故にどれ丈け上等といふことはあるまい。否寧ろさう云ふ人にとつては公娼は有難くないのである何故なら公娼は場所やその他の制限があつて到底粋人を満足させ得ない。反之私娼は凡ての點に於て自由である。天下何れの場所へも相携へてゆきその性慾の滿足を滿たし得る便利がある。ある人の云つた樣に公娼は性的不道徳の入門である。此所で得た味ひの延長擴大を求めて私娼に至りそれのみに滿足し得ずして遂ひに良家の子女にも危害を加へるに至るのである。此意味に於ても公娼は廢止せねばならない。喫煙飲酒が凡ての犯罪の第一階段であつて此階段を經ずに一躍してそれ以上の犯罪を爲すは難いといふ或老刑事の言の如く公娼を經ずしては私娼にも一寸接近し難いのであるさう思はれることには伊藤江南氏の統計に依ると公娼の多い地程私娼も多い公娼の少い地程私娼も少ない。これ一つには政府が公娼の營業を公認するといふ觀念が私娼でもやらうと思ふ者の良心を麻痺させるのかも知れない。かう觀てくると賣淫の不道徳を前提とした公娼廢止が直ちに私娼跋扈を助けるとのみは考へられない。又私娼制度となると他の稼業同樣私娼そのものゝ腕が直ちに自己の收入に影響して來るのであるから自己の健康に對しても非常に注意を拂ふに違ひない然らずして恐るべき花柳病にでもなつたら需要も減少して遂ひに自滅するの外はないのである。又私娼制度にするからとて警察に放任せよといふのではない。取締りは充分やることは勿論必要だ。登錄し廢業を自由にし特別の態度風采等もせぬ樣にさせ、必要に應じては檢黴もし臨檢もする。但し此ことは公衆にはなる丈け知らさぬ樣にして實行してゆくといふ風にすれば別に心配はない。政治の本旨も徹底し教育も實蹟も充分に收め得べくかくして國民一般の道徳が向上すればする程逆に私娼も廢業し從つて數も減少して來、遂ひには我々の理想通り醜業婦絶無といふ狀態にもより容易に至らしめ得るのである。

□公娼と花柳病

第二の公娼存置必要の理由として公娼は花柳病防止の爲め必要なりと說く人が多いがこれは要する警察の爲す一週間一二回の檢黴を有効なりと思惟する點から來た皮相の見解である。元來專門家の口を揃へて云ふ處は梅毒の診斷及び治療の困難なことであつて多數の日子と檢鏡的實驗とを經ざれば診斷は難く治療にも甚く程の多數の日子を要するとのことである。それを一週間一二回の形式的な檢黴でどうして眞の診斷が出來るものぞ。又治療にしても二三週間の入院治療等で迚も全快するものでない。此點に就いては廓清誌上に於て松浦博士が詳細に述べられてゐる。

又事實に於て若し花柳病に對する防波堤の働きを公娼が爲してゐるものとすれば公娼の多き地程、花柳病は少き筈であるが壯丁檢査の統計に依つてみれば花柳病と公娼の數とは毫も關係を示して居らない。(廓清六卷第五號三〇頁參照)

かく調査し論及し來れば公娼全廢を必要とする理由こそ益々認めてくるけれども公娼存在を必要とするの理由は漸次無くなつて來る全然無いと云つてもよい。然るに存置を必要と云ふ人は要するに改良の勇氣のない舊を守るに戀々たる人たるに過ぎぬ。眞に愛國の熱情ある者は何物を措いても公娼の二文字を現社會より葬り去ることに努力せねばならぬ。かくして人間凡てが合理的な各自幸福を平等に感謝して享樂し得る底の理想的社會を建設するその土臺の一つを据えればならぬ。(一九一八・二・二八稿)

(評)　廢娼論としては本篇の如きは最も要領を得たものであらう。公娼問題といふものは、人道問題として論ずるだけでは足りない。道徳問題として論ずるのも亦其一面だけである、絶娼論は暫く別として公娼廢止論の中軸は究竟社會政策としての是非に歸着するのであるから、此點を最も明快に論じたものでなくては一等として推稱する事は出來ぬ。本篇は其點に於て、研究があり理解があり、立派に公娼制度廢止論が成立つてゐると思ふ。

如何なる問題でも研究のない議論は價値がないが此問題の如き特に「必要なる害惡」となすのが今日の常識であつて、研究の結果常識と異つた結論を得るのであるから、殊更形式よりも内容を尚ぶ、選者諸先生が本篇を選ばれたは至極同感である。(江南)

生物學上より公娼全廢を論ず

壹　等

大阪醫科大學　谷向茂峻

□序　論

性慾の襲撃は思想を混亂させるものである。否寧ろ思想を滅すものである。全世界は暗黒となる人は世界と關係を斷つて仕舞ふ。偶然と暗黒と敗北と！……トルストイのお爺さんはこう云つてゐる。誠に意味の深い言葉であると思ふ、若いお互には必ずこの類の經驗がある事であらう。私は今性慾の發動に關して生物學の立場から說き公娼問題に移り、私共の執るべき方法を考へて見たいと思ふ。抑々この問題は非常に重大な問題で且つ種々の論議もあつて各識者諸先輩の苦慮さる廣汎な問題であるが故に私の所論は單に學生の見地から述べるに過ぎない。世間では往々性慾教育の可否を論ずるが子女が適當の大きさに達したならば適宜な例と共に性慾の觀念を與へる事が必要である。吾國の善良な兩親にあつては性の問題は口にするのも忌むべき事と爲し、まして子女にかゝる事を敎ゆるを絕對に避ける傾向がある。これは考ふべき事ではあるまいか子女が相當の年齡に達すればその周圍よりは幻ながらも必ずその觀念を得る。しかも夫れは誠に不健全なので父兄が絕對に嫌忌すべきものとして避ける程益々性欲の觀念を誤謬に陷れて仕舞ふ。私共の理想は常に世のあらゆる婦人に對しても母或は姉妹に對する敬愛親睦の情を抱きたい事である。誰か自分の母姉妹に向つて不淨の心を抱く者ぞ。これが爲には徹底した性慾の觀念を與へ、子女自から自重の念を起させればならぬ。

私は本年二十三歳になる。未だ子供のつもりでゐる自分に、郷里にあつては早や結婚の問題が起つてゐると自分にとつて驚異の眼を見張らしめた。父と私とは向ふ十年を期して大いなる事業の計畫がある。父は私の中學時代にはよく父の青年當時の實例を引用して異性に關する注意を與へるのが常だつた。中學を出るとこの偉大なる事業の標的が與へられた。私の心は常に高鳴る。私の眼は常に輝く。而して今茲に重大なる性の實際問題が起こつた。二件ばかり是非にと申込みがあると眞面目な顔で私を見守られた時私には宿年の大業が頭に輝いた。言下に私は拒絕の意を漏らした。父の容貌には歡びの期待した筋肉のゆるみがあつた。勿論父にも婉曲な辭柄を以つて申込みを拒絕された事はすぐに話された。かくて第一回の縁談は茲に全然否決されたけれどもこの實際事は私の心に如何なる影響を與へたであらう。事業に對する執着は愈々強くなると共に私の性に對する自重心は益々加はるのを覺えた父の大膽なる實際問題の提出は私をして性に關して愼重な態度を執らしめる樣になつた。これは僅かに私の日常事にすぎない。けれども此の事から推測して性に關する實際問題（これには徹底した性慾の觀念が伴はればならぬが）と大なる標識を與へて青年子女の自重心を期待することが、如何に重大な事であるかゞ了解される。

□種族保存慾としての性慾

性慾に關しては今や哲學的抽象論では間に合はぬ根底を生物學、生理學の立場に置いて根本的觀念を與へる事が緊急事である。私は以下生物學、生理學の指さす所に據つて赤裸々に決して性の問題は神祕的なものでない事を說き、その意義を明かにし青年子女の自重を促したいと思ふ。哲學者や或る詩人は人類を全生物の代表者と見做し、推して他の生物の現象を人類と同樣に取扱つてゐる。彼等は人類の目的は快樂にありとする。併し乍ら斯く複雜な進歩を遂げた人類より一般生物を推測する事は全然間違つた考で、今日生物學の方で比較解剖學、比較發生學など比較なる文字を冠せた學科が行はれる樣になつたがこの爲斯學は一段の進歩を來した。かく科學の正確な研究は全く比較研究に依らればならぬのである。この點から考へて詩人哲學者のもつて神聖なりとなす戀愛そのものは嚴密な生物學的意味に據れば單に兩性の生殖細胞を合一せしめんとする前提にすぎない。それでウエベルが云つた樣に元來種族保存の爲の性慾なるものは人間にあつては文明の餘弊としてその發顯や形式が著しく變化して來たといはればならぬ。卽ち人間は種族保存の點よりみ神聖不侵の生殖器を濫用して以て快樂となすに至つた。種族保存といふ重大な意味の如何なる犧牲も不惜拂はしめんとした天は謀計を以て高等な動物に性慾の樂しみなるものを與へたのであつた、私共の觀る所哺乳類以下の生物では生殖慾を以て快樂とするは甚だ疑はしい。寧ろ或る刺戟の反射作用に過ぎない樣である高等な動物には勝れた智識がある爲たとへ種族保存の

嘗さいへ「生みの苦痛」さいふものは若しこれに前提する性慾なる快樂がなかつたならば全然耐え得られぬ所であつたらう。天の配剤は誠に至妙である。人類を以て全般を推さうさした詩人の諷諭は茲に指摘される彼等は蓄積した精液の排泄的快感を以て性慾生活の大部分さした。優良なる子孫を得んさする事は實に第二義に過ぎなかつた。人類がその文明に狎れて僭越な振舞ひが多かつた間に彼等の智識こそ愈々發達し實驗室で自然の蛋白類まで作り上げる樣になつたが一方身體には種々退化の徴を現はした。私共の背は近い將來に消失して仕舞ふであらう。それは益々自然を遠去つて美食する文明の餘弊の爲である。夏に扇風機を用ひ火桶を抱いて冬を送る。彼等の外界に對する抵抗は益々減ぜざるを得ぬではないか。しかも塵埃を呼吸し惡瓦斯を吸入して、ごうして自然の日月の下に赤裸々な生活を營む野蠻人の體が保たれよう。從つて剛健な氣象も日に月に消え去つて淺薄紙の如き人間が出來あがるのである。加ふるに尊重すべき生殖器の濫用が現はれて人類の將來は誠に憂ふべき現象を呈して來た。身體は愈々抵抗力を缺いて退化せんさするに種族保存の生殖器の濫用は終に生殖の能力を萎微せしめ從つて生產率を遞減せしめるさいふ事を來たしたのである。

□生殖器濫用の影響

私は更に細に入つて生產器の濫用の恐るべき所以を說きその濫用に干涉せざる社會に向つて最も尊重すべき生殖慾を輕蔑する公娼制度を生物學的見地から全然廢止すべきを絕叫せねばならぬ。世人は一般に酒類に對してこれを敵視し適度の飲用をも疑忌するに私共の最も危懼に堪へぬ性慾に就いて毫も警戒する所がないのは慨嘆の至りである。それごころか由來一種の謬見が存在して性慾行爲より來たる花柳病は男子の一度は必ず罹る病さ信じ中にはこれを誇る者すらあつた。併し乍ら生理學上より見たる生殖器の濫用は最も注意に價するものがある。例へば精液の亂用である。精液の一回の放射量は約五瓦、これを血液に換算して約三百瓦に相當する由である。思ひ給へ私共は一回の性交に約三百瓦の純粹な血液を失ふのである。三百瓦さいへば醫者が與れる三日分の水藥の量である。諸君にして諸君の眼前に一度に三百瓦の血が流れ出たらごんなに驚くであらう。こゝはお互によく考へねばならぬ點ださ思ふ。血氣に逸つてこの尊い三百瓦を迸るにまかしてよからうか。故に「二十歳以前血氣發して未だ堅固ならず、此の時屢々もらせば發生の氣を損し一生の根弱くなる」さ古人は懇切に私共を敎へる。或曰く「凡そ男子二十以前は生精の氣盛んなる事火の初めて燃え泉の始めて迸る如し。その勢沛然さして慾念止み難しさ雖も精氣未だ滿たず體力未だ完からず偶令壯質の人たりさも交接を愼しみ精液を泄らさざるべし。此時愼まざれば眞の元を損して發生の本弱くなる。當時その實覺えざれごも、奚ぞ夭折の患免かれんや、故に聖人法を立てゝ男子二十に滿たざれば婚娶を不許、女子十五より以前男色を近づけなば陰氣早く泄れ血脈を傷く終身經不調、その害男子に同じ」さ。私の說明はこれを以つて盡きてゐる。

一度失はれた精液には古人も精液は血の精なりさいへる樣に新鮮な十二分の血液を補給するを要す。併し乍ら他方激烈なる生存競爭の爲に身心の過勞に對して亦過分の血液を要するのである。しかるに制限ある人間の血液はごうしてこの兩者の要求に應じ得られやう個體は恰も飢餓の狀態に陷り腦及び神經の活動を貧弱にする。この際現はる著明な結果は視力の減退卽ち近視である。或は神經衰弱である。其他には又憂鬱症顚倒性慾、肺病、遺尿症、腎臟炎などがある。併し乍らこれ等は性慾誤用者當人にのみ現はる惡結果にすぎないが最も恐るべきは罪なき人々をもその渦中に投ずる事である。それは外でもない花柳病である。卽ち一度これに感染すれば一身を損ふのみならずその病毒は子孫に遺傳し其體質を惡變するは勿論全然生產率を零にして仕舞ふ。

□怖るべき花柳病の禍

花柳病はその示す如く多く花柳の巷に流行するを以つてこの名がある。これは二別して黴毒淋病さする。夫婦間に子のないのは五割まで淋病に歸すべきであるさいふ。卽ち高等動物にあつては雌雄兩細胞の融合に依て生殖の目的を達する事は既に諸君の御承知の事實である。その生殖至大の目的を達する男子の精蟲の缺乏は主さしてこの淋病に由來する。更に梅毒に至つては又恐るべく或は脊髓炎、進行性麻痺狂を起し、一方子孫を不具癈疾たらしめ且つ二代三代さ遺傳する事が證明されてゐる。なまじいに眼に見ゆるだけ梅毒の方が素人には一層恐ろしい樣に思はれる。梅毒には二種あつて、病毒が體内に存する潜伏性のものさ病菌が血液或は淋巴液に混じて體の外皮或は粘膜に現はるゝ顯出性のものさ。この際は單に接觸だけでも例へば接吻のみで容易に感染する。梅毒の一期二期三期さいふは初め生殖器の微傷に病菌が接種されてそこに疱狀或は小結節狀の腫瘍が生じやがて潰瘍に變じて其の底さ周圍が硬くなる。これが第一期で初期硬結さいふ。第二

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

期は皮膚梅毒で始め第一期の終りに太股の所謂「グリく」が硬くなり婦人では膣口の附近に隆起が出來粘着性の液を出す。次で頭髪が抜け口唇、舌、鼻孔などの粘膜が加答兒を起こす。皮膚及粘膜の梅毒性炎といふは是れである。第三期に移つては内臓を侵すのであつて所謂五臓六腑を始めとして骨も血管も脳も一つとして侵されぬ所はない。梅毒の大體は右のやうであるが、初期に於ては治療に依りて容易に治し得るけれども二期三期に及んでは、自然壽命の盡くるを待たねばならぬ。淋病は淋菌より起こる病で尿道膣は勿論鼻、口、眼の中にまで病菌が蔓こり、これ等から傳染するは前者同樣である。特に陰部の粘膜には夥しく一度接觸すれば忽ち感染する。これにも潜伏顯出の二樣あつて前者は五年乃至八年も潜んで居た例が擧げられてゐる。梅毒にあつては潜伏期中は感染しないものであるがこのものは潜伏期中にても新らしい粘膜とか、或は何かの工合で血液の補給が十分な機會を與へると忽ち生活力を恢復し非常な繁殖を來たすのであるこれが爲に適當な治療を怠かにすれば男子では尿道炎となり精巣副精巣攝護線に炎症を起こし大切な精蟲を殺して仕舞ふ。延いては膀胱炎、腎臟炎、結核の素質ある者は肺病に罹り、或は慢性の腦病、脊髓炎、心臟肋膜などの死因を作る事になつて來る。婦人の方では子宮内膜炎、喇叭管膿腫を發し遂には腹膜炎を起こして斃れる事がある。所謂婦人病といふのは大部分これに基くのである。淋菌の恐ろしいのはその傳染力の非常に猛烈な事と且繁殖の極めて速い事であるが、一度過つて直接眼に入る樣な事があつたら忽ち一夜の中に失明し去るのである。

梅毒にあつて子供が胎内で其病毒に感染したものを先天性梅毒といふ。この遺傳は兩親の一方に毒がある時（特に双方にある場合には胎兒はとてもその病毒に耐えて發育する事は出來ないが）或は受胎當時兩親ともに無病であつたにせよ後に罹つたならば矢張り病毒は胎兒を養ふ血液に混じ胎盤より子供に移行しこれを侵すのである。故に幸にして子女を得たとするもその生れ出たる子供は既に初期の狀態を越して二期三期の混じた徴候を現はしてゐる。されば主人一人の不行儀の爲に無辜の新婦を名狀すべからざる苦惱の中に陷れたり婦人より更に子女に感染して一家悉く花柳病に患つてゐる例も乏しくない。その慘たるもの實に視るに忍びないものがある。素人眼に梅毒程も思はれてない淋病も中々馬鹿に出來ぬ恐ろしい疾患である。

□公娼制度は學理の矛盾

以上大略性慾の惡用の恐るべきを述べたつもりである。次に私は生物學に立脚した見地に於て公娼全廢の議論を立てねばならぬ。抑々生殖作用とは生物が自己の種族を後代に傳へゆくといふ爲の事柄で生物の存續と密接な關係がある爲に苟も忽にせぬ樣になつてゐる彼等には一定の時季に限つて强烈な生殖慾が起こつて來る。この慾望を遂げる手段として或は佳香を放ち立派な鱗や立派な羽毛を飾り立てたり或は妙聲を發し又優美な舞をしたり、その間に於ける子孫繁殖の爲に非常な苦心と努力が盡されてゐる。然るに人類の如き高等な動物には常にこの慾望が存在する。これが他の一切の生物に打ち克ちてこの文明を創り上げた所以であるが、其餘弊は人間をしてその本來の眼目を忘れしめ徒らに自己の快樂のみを逐はんとするに至らしめた。個體の永存、生命の無窮社會國家の隆盛といふ事は人間も矢張り他の生物の如く生殖に依て行はれるのである。この點に於て淫賣なるものは極めて不自然なものである。それは意義ある生殖器を濫用せしむる唯一の手段であるが爲に。故に淫賣を公許し、あまつさへこれを保護する如きは其不自然行爲を認め或は助成するの惑なき能はぬのである。初等中等教育に於て枯淡無味の倫理學を授けられた青年が一度自由な社會に出た時にかゝる制度の公認されてある事は如何にその若い好奇心を煽つた事であらう。私は有望な同胞が世の惡風潮の渦中に卷き込まれ恐るべき結果を來たしつゝあるを見て奮激云ふ所を知らぬのである。自分の心は若い學理の教ふる所に依つて同胞の墮落を閑視する事は全然出來ない。私は飽迄も生物學的觀念が徹底的に普及されん事を希望する。更に政府は全國に向つて青年團なるものを設置し以て青年の風紀を振肅せんとする借問すたとへ一定の制限が加へられて監督が嚴にされたとするもその門戸を解放しその媚態を衆人に見せる淫賣なるものを公許した以上、果して血に燃ゆる青年を統治して、その實を擧げ得らるであらうか。風紀の向上を計る社會は一面に於て、かゝる壞亂を公認してゐる。その矛盾たる甚しいものではないか。私は公平なる學理の教ゆる所に依て全然公娼の廢止を叫ぶ。學理には矛盾を許さない。世界はやがて科學の世界となる。そこには一點の矛盾も殘されぬ樣になるであらう。私は確信する。

□人類福祉の爲に貞潔なれ

全廢問題に對して私共の態度はどうあらねばならぬか。私共は生物學の指す所に依て先づ生物の價値——自己を知らねばならぬ。卽ち自己の先天的恩惠を感

對すると共に第二の自己にも忠實であられればならぬ。それが爲には根本的な性慾の智識が要るであらう。本來の眼目を逸してはならぬ。かくて其の使命を體得すると共に人間に與へられた恩寵を感謝せねばならぬ。

私共には卽ち優良なる智力がある。其れには力強い自制自重の念が伴ふ。これに依て私共は時として打たるゝ非常な衝動に耐えなければならぬ。一度過てば全世界は闇である。人は世界と關係を斷つて仕舞ふ。偶然と暗黑と敗北と!」……博士ペー・ネッケは云ふ制慾の爲に精神病を發する事なく又補助の原因となる事なしと。私共はこの結論に大いに力を得たものである。須く私共は人類福祉の爲に貞潔を尊び適當なる時季に適當なる配偶を求め嚴なる一夫一婦制度の下に人生をして有意義ならしめん事を希はねばならぬ

(評) 公娼問題を科學的方面から研究する事は元より緊要な事である筆者は主として其專門とする生物學生理學の立場から此問題を論究せられたが、年齡の稍少なるに反して、論旨の堂々たる優に一家の學說をなしてゐるのは推服の外はない。選者諸氏が福原氏と同點に附せられたのは元より其處であるが、論陣を生物學生理學の一部に限られた點に於て、一等の二席とした次第である(江南)

公娼全廢

參等　・第七高等學校造士館　門田武雄

□社會—教育—學生

現代社會の問題なる公娼全廢に關し是を學生間に尋ねて、學生が把持せる意見を徵せられんとするは、彼等をして此の問題に留意せしめ、相當の見解を抱かしむることにより、尠からず利益を與ふることを、思惟して趣意を滿腔より贊するものである。然し學生が此の公娼問題を考究せなければならない社會は、全く高尙ならざるを今更の如く痛感するのであるが、更に私は該問題が學生間に極めて眞面目に且つ闡明に考究せらるべき、喫緊の問題であることを、確知してゐるのである。故に私は公娼に對する見解と全廢に關する意見とを學生としての立脚地より、求めんと欲するのである、又現在の私として採るべき唯一の道であると思ふ。勿論學生の問題は直接に社會の問題である。學生を德化する眞理は又社會を啓發誘導することを疑ないと共に、社會に弊害を及す事項は又學生を毒することは論を埃ないのである。殊に社會を腐敗せしむる因習が、學生の精神を浸蝕することに濫りて、社會の蒙昧なる一部の人間が招致する道德的頽廢よりも、更に深き創痍を有機的社會に齎すことを明察せなければならない。學生は社會を組織する全部ではないけれども、學生の將來が社會の知的並に道德的範圍に於て、重大なる關係を有せることを洞察すれば、學生の抱懷する知的概念及び道德的觀念の如何によりて、彼等が構成する將來の社會を卜する事が能るのである。而して社會が學生の知的道德方面に至大の影音を及すものなるが、彼等が時代の趨勢より超越し或は慣習の冥蒙より擺脫して、必然的にして普遍的なる眞理の體驗よりして、知的概念並に道德的觀念を得て始めて、社會に對すべきを思ふのである。彼等の本質よりの絕叫が社會の啓蒙となり改革となつて、頑固たる社會の誤謬を、妥當へ變轉せしむる偉力を包有してゐる事は歷史に徵しても昭明なことである。眞理に反對なる社會の醜惡を端睨して、悲涙滂沱として流るは眞理に生んとする熱烈の欲求と、絕體美に至らんとする崇高な憧憬とが、裏切られたる刹那の心境であつて、放擲し難き欲求と、抑壓し難き憤慨の中から反抗の聲を叫ぶのである。改革の運動は起る、此ぞ眞に社會を救極するの叫びである。此の學生にして社會の弊風に感染し本領を失ふに到りては、社會の改革否社會の健全なる存在すら何處に求むべきであらうか。學生は社會の改革者であり得ると共に、一歩を誤りては社會を腐敗せしめるものであつて、卽ち建設の勇者であり得ると共に破壞の暴君ともなる、私は不幸にして學生間に改革者を出さんが爲には先づ第一に學生を改革すべきが現狀であることを悲まざるを得ないのである。

公娼の如き問題も社會的の問題であるが又學生間にも考究せられなければならない問題である。

然かも眞理に生き絕體美に到るべき學生が其の意欲と願望とを根柢より枯死せしめつゝあるは、該問題の犧牲となりしに基くことの夥多なるを想起するの時戰慄せざるを得ないのである。

私は學生の無定見を恨むと共に、斯くの如き制度を默許し彼等を自滅せしむる社會を呪ふものである。學生をして健全なる發達より沮害し幾多の俊傑を墮無に

陥る無數の慣習が社會に介在してゐる、擧げて數ふるを得ざれども公娼制度は學生を毒する甚しきものであると言ふも過言ではあるまい。

善良なる學生を涵養して有爲の青年の輩出を要求する社會が、他方に學生を墮落に導き青年を復歸し得べからざる狀態に陷る慣習を認容する其の矛盾を、笑はざるを得ない。教育の普及を方策して惡習の芟除を看過せる社會は、河川の清淨を翹望して源泉に穢土の介在してゐることを忘却してゐると其の類を同じくせるものではあるまいか。此の意味に於て社會は惡習を排除すべき義務を教育に對して負ふてゐることは、明確なる事實である。然し教育事業と社會惡習の芟除とは相關せざるが如き現狀に非ずやと、疑を抱くは社會を明察することにより必然に起り來る結果である、公娼の問題に對し社會は如何なる措置を爲しつゝあらうか。勿論教育家は惡習に對し警戒怠りなく時として正鵠を失する程なるが、如何程の効果を齎したであらうか。否定的教育主義即ち「爲すべからず」主義に果して教育の本旨が完遂せられ得るであらうか。此等を思ふ時現代教育の缺陷を呪咀したくなる。惡習の排除――公娼の全廢――と教育との關係の決して鮮からざるが故に現代教育を考察してみやう。「爲すべからず」と強行し訓誡する裏面には「爲しつゝあり」と云ふ事實を、肯定せるものと云はなければならない、更に「爲しつゝあり」と云ふ事實は「爲し得べき」ところの動因の存在してゐることを、推知せしめるのである、此の動因とは何であらうか。私は善良なる人格を構成する種々の要素に反對なる要素が動因であり、其の一は醜惡なる慣習であることを確信するのである、此の醜惡なる慣習の存在を前提として行ふ否定的教育主義即ち「爲すべからず」との教育が、學生を涵養する權威を有してゐるとは認められないのである。勿論倫理學的又は論理學的智識の附與を以つて、學生の知的概念の發達を方策することを得るけれども、現代社會の如く惡習の滔々として闖入して來る時、道德的觀念の薄弱を以つてしては、修得したる知的概念も不幸にして其の實現性を喪失して、空理空理とならざるを得ないのである。現代教育の缺陷は道德的觀念の薄弱にあるのである。加之社會が惡習に對し無感覺であることは益々學生を邪路に彷徨せしめる原因となることを、觀知するに難くはない、若し社會が惡習の排除――公娼の全廢――を敢行しつゝあるならば此の否定的教育主義をさへ採用しても、轉て善良なる學生を教養し健全なる社會を生成する素因を作り得るのであるが。社會と教育とは全く是に反對してゐるのである。而して此間に於ける學生は教育の本旨に順應せる少なしつゝありとは稱し難きも、なし得ざる其の缺陷の苦悩を憫察すべきものと思ふのである。

□公娼の弊害―全廢の急務

公娼問題を論ずるに先ちて社會と教育と學生との關係を略述し、現代社會の惡習が教育を誤謬に導き、學生を墮落に陷るを悲しめるが、惡習の一たる公娼の害毒を指摘し、此處に益々學生の根本的自覺の必要を力說し全廢の急務を主唱せんとするのである。

公娼制度の認容が如何なる影響を與ふるかを考究するに當り、立脚地を確定せなければならないと思ふ。公娼制度の發生に關する歷史的事實が、全廢の問題の前に於て如何程の權威があらうか。因習が招致する所の事物に對しての無感覺に慣つて、誤られたる概念を生じ、此の事物の解釋を爲すに當り、人々を誤謬に陷ることは屢繰返されることである。是に反して凡ての羈絆から擺脫し眞理から發生したる概念に基く、批判が妥當なる見解を人々に與ふることは明なる事實である。されば人々の無自覺によつて認容せられんとする長き歷史を有せる公娼問題に對し、內心の自覺から生ずる眞理の渴仰があらゆる傳統的な見解を除去し、私をして是に反抗の聲を發せしめるのである。

若し必然性に根蒂を有せる生活を確立せんとする崇高なる意欲が、無い場合に於ては公娼問題を論ずるの必要を知らないのであらう。否一般道德的問題地に是を啓發する宗教、倫理、の力を感じ得ないであらう。故に公娼問題を論ずるに當り私は此の崇高なる意欲の衝動によりて、論じ決して歷史的觀察の上に立つものではない。此の見解より出發するならば公娼制度が社會と教育と學生に及ぼす影響に闡明なる批判を下し得るのである。

公娼制度が害毒を社會に流し年々發表せらるる患者統計の中に公娼に起因せる病根に浸蝕せられて、哀れ健全なる身體を自滅しつゝある人間の莫大なる數に上れるを識る時、先づ第一に公娼が發生せし理由を考察するに先ちて、公娼制度の結果の如何に恐怖すべきものなるかを省慮するがよい。假令其の發生が如何なる理由に依據するとも、此の害毒を胚胎する公娼制度存在の理由を、妥當なりと認め得られやうか。公娼制度の默許によりて無感覺が誤謬の概念を與へ、社會の人々は言ずもがな克己心を破壞して幾多の學生が冥窠に陷りつゝあることを忘れてはならない。

若し知的見地に立ちて見るならば無智なる人間が遺傳性の人間に密接の關係があり、痼疾的遺傳性が如何

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

に憂慎に耐えざるものなるかを知らざるを寧ろ憫察するのであるが、智識ある學生が此の事實を犯して公娼制度の犧牲になる無理想を惡まざるを得ない。

肉體的要求から發生したりとするも、反つて公娼が肉體を破壞しつゝある所に、明なる矛盾があるではないか、公娼が日日健全なる人間を犯し破壞されたる身體の遺傳性により將來に及ぼす結果、現象を豫測する時猶此の公娼制度の默許を看過し得べきであらうか。

若し精神的見地に立ちて見るならば肉體的損耗以上に寧ろ精神的潰滅の甚大なるに驚くであらう。肉體的損耗に對しては時として免れ得ることあるも精神的なる死を齎すことに對しては、人間は逃避し得る如何なる道をも、見出し得ないのである。人間には精神生活を忘れることは能ない。精神生活の如何なるものなるかを窺知すれば、公娼制度の斷乎として許すべからざるを確知することが出來るのである。先に述べたる最高なる意欲は此の精神生活からの發露にして是を皆無にしては、何處にも精神生活の美を窺ひ得ないのである。

公娼の犧牲となることが如何に多くの害毒を精神生活に注入しつゝあるかを、商量するがよい。先づ第一に負ふ所の創痍は貞操に對する道徳的觀念の墮落である。

公娼の人格を認容するならば是れ貞操の蹂躪にあらずして何であらうか。彼等も一個の人間たる以上人格を有するは昭明のことであつて、若し彼等の人格を無視し得るものとするならば、其の人の精神生活の内容は薄弱枯灰なるものと云はなければならない然し無視することが、彼等の態度に依りて確證せらるゝを思惟すれば、彼等を此處に導きたる、公娼制度の認容に罪ありと、云ふ可きである、公娼と共に公娼制度の認容が如何に害毒を流布するかを知り得るであらう。是を以てしても公娼全廢——制度排止——の急務なるは疑ふの餘地がない。彼等の貞操を蹂躪することは、總て一般の貞操の無視となり蹂躪となるのである。貞操の尊嚴を主張しても此の現象を考ふれば何の日か主張完遂を庶幾すべきであらうか。此の恐怖すべき危惧に耐えざる背徳的の慣習に沈湎し、無意識の間に、芟除し得ざる道徳上の欠陷を、胚胎しつゝある無定見を呪咀するものである。社會の道徳は社會の組織する人によりて頽廢せらるゝものであるまいか。私は社會が貞操を人格の喫緊なる要求とし乍ら、貞操を輕視せしめる習快を與ふる公娼の全廢を社會に訴へんとする者である。

私は特に學生が是が爲に遊學の道を誤り甚しきに至りては廢學の不得止に至れるを、瞥見して精神的の潰滅が彼等の崇高なる意欲を喪失せしめし、結果に起因せるを想起する時、悲しむべき人生の一頁を作り暗黒の時代を生じて、歴史を汚す此の敬虔の念なき思想を悲むものであるが、又彼等を社會の惡習に感染せしむるが如き無氣力の教育を呪咀せざるを得ない。是れ敎育の欠陷は道徳觀念の薄弱なる爲であり、學生の墮落は無自覺の結果である。

以上は公娼制度に起因する社會上の肉體的精神的損耗を力說したのであるが、私は更に公娼制度の設置は果して人道的なるかを考究しなければならないのである。

公娼の悲哀悽慘の運命を想到する時、人生に對し社會に對し其の發する呪咀の聲の悲痛にして肺肝を刺すを感ずる。人をして快適に導くものも公娼をして悲痛に陷らしむるに於ては非人道と稱せざるを得ない。彼等には人格を認んとしても認む可き何物をも所有しないのである。自由があるであらうか。權利があるであらうか、唯權力の前に屈從すべき義務があるのみである、彼等は奴隷と如何程の徑庭があらうか。若し彼等に心的生活が無いならば此の不自由なる外的生活の中に憤死せなければならないであらう。公娼を認容する社會に反抗し得ない無氣力は完全なる道徳からではない。慘虐なる非人道的欠陷を有して何處に人道の花開くべき希望があるであらうか。

由是觀是公娼制度の全廢が社會改革の上に於て重大なる問題なることを確信すると共に、學生を救拯するの道も是に外ならないことを主唱するのである。公娼制度の斯の如き背理的なる事を闡明することに因て全廢の急務なるを斷言するのである。

□公娼全廢の道—道德觀念
—自覺と新光

先覺者により公娼の全廢は提唱せられた。幾多の宗敎家道徳家は全廢の運動を開始した。幾程の人間が此の提唱に耳を傾け、此の運動に身を捧げたのであらうか。私は此等の眞摯なる主義獻身なる努力が、功利的なる人間に蹂躪せられ、公娼の增大こそあれ、公娼を排除し得ざるを悲しむものである。社會組織を浸蝕しつゝある此の害毒、卽ち恐怖すべき現象に關し、無關心なる二種の人あるを窺知する。一は是を利用することに職由して、利益を掴得する人間の無關心と、他は此に對し沒交涉なるが故に、無關心なるとの、二種がある。前者は人道を無視し、後者は人道に對す愛の欠けたるものなるを、知らば此の徒輩が如何にして社會改造の大事業に基く、社會の改善と、其に結果する社

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

會的幸福を、享受することの賢明なるを、洞察し得やうか。是が爲に眞摯なる運動も此等の利己心と蒙昧とによつて阻害せられ、公娼の全廢が至難なるを嘆ずるに到り、今猶公娼制度は續いてゐるのである。

然し公娼の弊害なる制度にして國家の休戚に關する結果を胚胎しつゝあることは、確知してゐるのであるが、此の制度の存續を許容する社會は、道德的觀念に對して眞面目なる良心を有せざるものと、推斷せらるるのである。此の推斷よりして公娼全廢の新しき方策を、發見し絕望的な悲觀的な心に新しき希望を與へて更に旺盛なる運動を起すべき勇氣を慫せしめるのである。

從來の全廢運動の欠陷を指摘すれば公娼の個人的救濟の必要、或は單に畏怖すべき結果を招致するを以つて、全廢を絕叫するに止り公娼其の者の泯滅を來せば足れりとし、公娼絕滅するも猶此の種の害惡を社會に釀さんとする人間の道德性の欠陷の救濟によりて根本的刷新を擧ぐるの道を採らざりしは、その欠點と稱すべく、私は道德的觀念の向上に憑りて、社會の人々が自發的に公娼の誘惑から超脫し、公娼をして自滅するの運命に陷ることは、外部的改革と共に相濟けて眞に公娼の全廢の實を擧ぐるに到ることを主唱するのである。罪惡より救拯して光明と和煦とを與ふるの道は罪惡の根源を撲滅し其の境遇を變化改善する所の道であつて、更に人々を、第一義の生活に轉向せしめ得る力を、包有してゐるものでなければならない。墮落に沈淪して苦悶せる人々の醜惡な狀態をのみ痛罵するにあらずして、根本の欠陷を排除し罪惡の懊惱より――暗黑より――光明へ誘導してこそ、眞に同情者の熱涙に共鳴し得らるるのである。此の道こそ、眞に救拯の法悅であるまいか。

公娼の全廢によりて社會の改善を計るに當つて私は此の道によりて覺醒せられたる人々の、道德的觀念に訴へて始めて其の實現の花を開くことが能るのであると思ふ。私は此等を以て十全の方法とは考へない。なぜなれば以上の凡ては個人が、自覺に到達する爲の知的概念の發達、並に道德的觀念の向上とを、誘致するに過ぎず、眞の社會改革――公娼全廢――は個人の自覺に發して始めて効果あらしむとが能るのである。公娼は惡習なりと確知しながら、人人の公娼の誘惑に屈從したるは自我の不徹底薄弱に基くのであつて、自覺なき結果である。

斯の如き自我に由來する人間の生活の何處に、美を體驗したる生活を發見し得やうか、社會の惡習教育の欠陷に斧鉞を下さんと欲する以上に、更に此薄弱なる自我を征服しなければならないのである。是を逆說すれば「自我」を浸蝕する惡習――公娼――を撲滅すべき必要を思ふのである、學生は岐路に立つてゐる、而して意志は弱い。若し青年學生を愛するならば彼等の此の憂悶に耐えざる欠陷を補塡し、彼等の心眼を開明し崇高なる意欲に出發し理想に向つて行進するやうに、至愛の序曲を奏してこそ學生を思ふ者と稱すべきである、徒に青年の墮落を痛罵するなく、自覺へと青年を誘導すべきであるまいか。元より自覺は青年自身の體驗に俟つべきではあるが、自覺へと啓蒙するこそ改革者の道である。

公娼全廢――それを道德性に訴へて公娼全廢を實行し、更に道德の命令が斷乎として、此種の弊害の發生を禁ぜしむるが如き社會を建設せんが爲に、全廢の運動と共に、知的並に道德的發達と向上とを方策するが新しき公娼全廢の方法である。科學は叡智と眞理とを示し宗教は理想と信仰を與ふ、而して兩者に根蒂づけられたる知的道德的確信が擧世此改革の運動に向しめ此處に文明的社會は現出されるのである。社會に自覺を與へ確信を起さしめよ、眞理の炬臺から放射せらるる新光によつて自覺の道を――道德の道を――確信の道を――驀進する時、到達の彼岸は道德の國である。公娼の制度は此の國より驅逐すべき第一の惡習ではあるまいか。

（評） 文章と云ひロジックと云ひ集まつた中では遙に傑出した大論文として私は全く敬服した。筆者は餘程頭腦の透明な人であらうと想像せざるを得ぬし、無論一等の榮冠を擔ふべき雄篇であると思つたが、さて讀終つて見ると私は其無研究に失望したのである。所謂金剛石も磨かずばと斯ういふ類をいふのであらう、筆者は存娼論も餘り知らず、廢娼論の區別もまだ理解して居ないらしく思はれる。だから之を公娼論の總論として見る時は實に得難き堂々たるものであるが、丁度境野黃洋氏等の數次の問によくあるやうに根本的に道德の向上に持たなければならぬといふ樣な一面だけを見た結論に陷つてゐるのは甚だ遺憾である。私は筆者に是非公娼制度といふものに對して研究を乞ひ、其の助力を得たいと思ふ。（江南）

◎本誌は出來るだけ、これを會員諸君の論陣に開放したいと思つてゐるから、何人もどうぞ御寄稿を願ひます。種類は論文に限らず、散文でも、詩歌でもよい。傳說、美談から、風敎上の御報道も御寄贈を祈る。

天鼓の響

山田遊廓の新設

神戸聖書會社　水野芳之助

主にありて敬愛なる

島田會長閣下

生は閣下が此俗惡なる社會にありて、身に劇務を帶びらるゝにも拘はらず常に正義人道の爲に極力御盡瘁せられつゝあるを拜聞し深く其御高風を敬慕し且つ感謝罷在候。

生は數年前、某姉妹の勸誘により貴會に加入し貴紙を愛讀し恒に之に依りて健全なる思想を養ひ高潔なる氣風を味ひつゝある事を欣幸とする者に候。

此頃大阪の一新聞(毎日新聞)を閲せしに左の如き記事あり、實に驚嘆の念に打たれ候。

「三重縣宇治山田市の遊廓は現在古市及び新道、新町の三廓に分離し居りて合計六十一戸の貸座敷に約二百七八十名の娼妓が出稼ぎつゝあるも、何分同地は多數旅客の入込み來る土地にて右三廓を以てするも尚狹隘を告ぐるの繁昌を極め居り一面娼婦の保健衛生上に寒心すべき結果を生ぜんとの憂慮より同地の有志者は最頃來渡邊市長に迫りて新道、新町兩廓の擴張問題を發案せしめ市會の內協議を開かしめたる結果愈々之が實行を企圖するに決したれば十七日午後渡邊市長、澤潟市會議長、西田市參事會員以下六名三重縣廳に出頭し知事及び警察部長に陳情をなせるが縣廳は何れ愼重の態度を以て該案を査察し近く其許否を明かにする筈」

御案內の如く、三重縣宇治山田市は大廟の所在地にして實に國民崇仰の靈地たり、從來、因習の久しき此地に斯る醜惡なる魔窟のあるさへ心ある者をして轉た痛心に堪へざらしむるに、何事ぞ、此地に蝟集する俗惡低級なる旅客の爲めに更に其魔窟を擴張して彼等の醜陋なる要求に供せんとは、實に聞くだにも吐氣を催さゝるを得ず、抑々今日は之れ如何なる秋なるか、之を內にしては國民の體軀を强固にし思想を純潔にし以て國家將來の健全なる發展に寄與せんとし、之を外にしては世界空前の大難に處して大に正義人道の爲めに貢獻せざるを得ざるの時に際し、假し、邦家の一部分とは申し乍ら、聞くだにも忌まはしき醜惡なる計畫を併かも一市の有力者(市長、議長、參事會員等)が、袂を連れて縣廳に出頭し、厚顔にも知事、警察部長に對して陳情したりと、豈驚且つ嘆ぜざるを得んや。

聞くが如くんば我聯盟國に於ては各々自ら克己抑制して獨り奢侈品は申すに及ばず日常の必要品すら、之に制限を加へて此世界大難の急に應ぜんとしつゝあるにあらずや、然るに何事ぞ、我國は目下、此大難の惡影響を受くる事比較的僅少なりと申し乍ら、均しく聯盟國の一部に加はり乍ら、事にもよれ、國民の病的思想を助長して國家健全の發達を滯ぐるに大支障を與ふる、一大惡處を擴張して國民の元氣を阻喪し、其體軀を羸弱ならしむる肉樂要求に應ぜしめんとは、餘りに無知低見にして殆んど言辭の加ふべきなきを覺ゆる也試みに察せよ、畏れ多くも我が皇祖は女性にておはしますに非ずや、而して我列聖中、女性の君主も幾多おはしますに非ずや、然るに同性を汲める女子をして卑陋なる男子の玩弄に供する爲め、其醜窟を擴張するが如きは極言せば、畏れ多くも大廟に對し奉りて泥土を投ずるが如き嫌ひありて實に恐懼無此上事に非ずや

彼等無智鐵面の徒と雖も一ト度、思ひを此に致さば豈に其心の責なきを得んや。

願くば會長閣下、天の雨降らざるに早く牖戶を閉鎖するは目下の急務なりと、抑々我等の理想を申さば、云ふ迄もなく斯る神聖なるべき靈地に斯る醜窟の存在なからん事也、併かも事情已むなくんば、斯る計畫の速かに敗滅せられん事也。

今斯る奇怪なる計畫の報道に接し之を默々に附する能はず、玆に禿筆を揮つて會員諸氏に最善の努力を致されん事を望む事切り、言詞禮を缺く幸に之を恕せられん事を。

非宴會主義

岡山　齋藤胡雁

總ての機會に於て、酒を飲む會合を作る、日本の風俗中にあつて、宴會を廢止し、又は制限しやうとする議論は、極めて衛生論として、迂遠の議論として、觀る人は、觀るであらうと、信ずるのである。

乍併、吾人は飽迄眞面目である、何等の虛飾なく、只自己の所信を述べれば、充分とするのである。吾人は、斯樣の理想が、直ちに實行せらるべきものと、思ひ且信ずる程、迂遠のものではない。唯僅の人でも、共鳴する人があれば、此上もなき幸福である

宴會の第一要件は、酒である、酒の害につきては、學者の科學的研究に依つて、議論は既に已に、全く盡して居るのである。此有害無益なる酒を飲む、機會を與へる宴會の制限廢止は、理論上正當のことである。

宴會に於ては、酒は適量以外に攝取する。此は別に說明を加へる迄もない、讀者の屢々經驗する處である。

宴會は男女の關係を、紊亂さすものである。宴會に興趣を添へるは、問ふ迄もない、社會の墮落者である女、卽藝娼妓、又は之に類するものである。斯る不潔の女性との接觸は、更に宴會に於て、機會を與へられ企劃されるのである。男性の墮落の第一步は、不潔女子との交渉である。吾人は斯る危險の會合が、時と處とに關係なく屢々催されるのを慨嘆せずには居られぬ。

茲に宴會の利益を、高唱するものが無いとは云へぬ。彼等が利益の第一と數へるは、交を溫むると云ふにある。成程此點に於て、吾人は必ず共然らざるを、絕叫するの勇氣を持たぬのである。而しそれは或特殊の場合のみである。低級の社會と、その或場合に於て之を認むるのである。酒の仲介は、誠心誠意の懇親ではない。一時的のもの、例へば商業取引の如き、又は之に類した場合のみである。

吾の最も痛嘆して、止む能はざるは、靑年團の總會招魂祭等の、後に於ける宴會である。吾人は屢々靑年團の總會、招魂祭等の、會合後に、宴會の催の、あつた旨を記載してある、新聞記事を見て、慨嘆を禁ずることができぬのである。靑年團員は未だ年少氣鋭、理想と空想とを、打て一丸とした、覇氣滿々のもの、誠に之れ、人生に於ける過渡期のものである。彼等は、未だ飮酒の道を知らず、俗諺の何たるを解せず、况んや醜業婦に接する機會を經驗せぬ、洋々たる希望を有する、溫乎として玉の如きものである。然るに靑年團の總會に、知名の人と共に、會飮するに及んで、始めて酒を解し、色を解する者があると云ふ。嗚呼靑年團活動の、第一步、其第一步は此時に破れたのである。

最も歎ずべきは招魂祭後の宴會である。地下には尊むべき碧血を流して、邦家の犧牲となつた、英魂が永へに、鎭まりますのではないか、此の尊むべき、此の敬すべき、招魂祭の機會に於て、宴會を開くのである彼等英魂は、果して瞑すべきであらうか。おゝ眠れる英魂よ、御身は快く、生ける人の無禮を容れるの、雅量を有するや、否や。

讀者よ、暫く客觀的に見ることを止めよ。自ら其良心の閃について、主觀的の考案に、冷靜に併も、確に思索せよ。眠れる英魂の、是れを容れると、否とは別題である。忠君愛國の理を、體現して、最愛なる妻子と、扶養の義務を有する、頼りなき父母を殘して、雄々しく、勇ましく、我こそ、陛下の股肱よと、彈丸雨飛の中をも、事とはせずして、戰ひたる、而して斃れたる、英魂を地下に見ての、宴會の催し、讀者よ讀者は斯る新聞記事を見たることはないか、聞きたることはないか、招魂は、眠れる意味に於て、人生の美事である。人生の美事も、形のみでは、何等の價のなきものである。富者の萬燈も、形のみでは貧者の一燈の、精神的充實性を帶びたるに、遙に及ばぬことが、程遠いのである。宴會の場合は、只上に述べたるものだけでない。通俗教育を主張する、會合後の宴會、亦十字事業を主張する、會合後の宴會、愛國婦人會の事業を主張する會合後の宴會、曰く何、誠に數へきれぬのである。何れも皆非宴會主義でなければならぬ、人達の宴會である。矛盾、撞着、徹底せぬ主義、是が日本風俗の現狀である、日本現時の宴會氣質である。吾人は、非宴會主義を主張する、聲を大にして、非宴會主義を主張する。主張せざるを得ぬのである。

敢て此の缺點

栃木縣芳賀郡　柳　蛙　生

歐洲の戰亂治らず　物價は益々騰貴して國民の大半は生活難に日夜苦しむのさき、一部の成金は只自己の低級なる快樂にのみ沒頭して、國民の大半の苦痛を外にして徒に酒色にふけりて、內憂外患の交々至ると思はんのは實に歎ずべきであります、當局のなす事の改革も枝葉にのみ渡り、根本に觸ずして只人心をして何處に依らしむべきか實に迷ふのであります、私共は常に忠君愛國は口にし且つ耳にしてゐます、そして此の忠君愛國は戰時にのみ用ありて平時にのみ不用の筈はありません、私共の常に見る所では吾國民は決して忠君愛國の國民として見られません、殊に現時歐洲の戰亂を對岸の火災視して戰時の利得を以て酒色に求めて飽く事を知らず、妻子を省みずして名も家もあらざる藝妓娼婦の元にたはむれて、自己の家庭をして恰砂原の如く無味乾燥ならしめ、多くの不良少年及び少女を出すは彼成金の中に多くあるを認めます。

且つ彼等は自己の利益問題に處しては少しも他を省みずして、日夜汲々として利益問題にのみ沒頭するは實に慨すべきであります、吾々の住む此の小天地（眞岡の如き）すら藝者の稼ぎ高は月々一人五六十圓を下らず、只一つの遊廓すら日夜遊野郎の遊ぶもの其の數の多きこと實に驚く程であります。吾々職を小學教育に奉じて日夜此の樣の彼無垢なる兒童の腦裡を刺激して彼等をして將來に於て幾多の禍をなさしむる事は尙一層甚しくあります、吾々が日に五時間位の教授は此の惡潮流によつて破られ、彼等は一夜劇場に出入して反つてよく種々なる事を印して時々之を發表して喜んでゐます、殊に吾々職の貴重にして大責任を感ずるのと、一層自己の力の足らざるを感じます、吾々一小學校教師でありますが、吾々の口を通して言つた事は必ず此後二三十年にして必ず實行される事と信じてゐます。されば吾々廓淸會員は社會の急先鋒となつて活動すべきであります、例へ吾々の聲は小なりとも眞實の叫びであります、何時かは吾々と一致するの多數の人のある事を思ひます、さらば淸淨無垢なる諸君は吾々と志を同ふして幸ひに人後に落ちんものです、吾々の使命は實に天より與へて吾々に何事かなさしめんとして日夜吾々の如何に活動しつゝあるかを見つゝあるのであります、吾々は天より受けし此の淸き心身をして、常に種々な煩悶に苦めしらるゝ吾々の同胞をして一日も早く淸き人として社會により多くの期待を與へやうではありませんか。

私は大正四年からの本誌の讀者です、そして職を小學教育に奉じて六年間さばず泣かずに來りましたが最近讀者諸君の活氣ある活動と、世人のあまりの不眞面目に一層吾心を痛めて、終に此の叫びをなさしめたのであります、。妄言多謝。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

編輯の後

□話はチト舊聞に屬するが、先達の事、市内の某婦人科醫師の處へ生活難で困りますから、是非ともお助け下さいと、涙を流さん許りにそれとなく、墮胎を頼みに來た一婦人があつたさうである。いろ〳〵身の上を訊いて見ると、其の夫といふのは現に月收八十圓以上の、最も名譽ある帝國の某官職に在る人で、家庭には夫妻二人限り他に誰も居ない。そして是れが初産だといふから、什う考へても生活難の爲めではなくて、詰りは婦人の奇怪な虚榮心から出でたといふ事が判つたので、醫師は其不心得を懇に諭して歸らしめたさうであるが、此はホンの一例であつて、今年になつて斯る依頼を受けた數は、既に兩の指に餘ると嘆息したといふ。これが下流社會の無智な階級なら未だしも、十中の八九は大概女學校位出て居るらしい、中流以上の婦人であるといふに至ては實に言語同斷ではあるまいか

□此事實を世の識者に提供して、其の解釋を求めたならば何と答へるであらうか。「時代風潮の變遷と、生活難の殺到は、左右斯ういふ弊を齎して來るもので、什うも致方がない」と頭から諦めて掛る者もあらう。或は「此事例は常て佛蘭西にあつた事だ。それが愈々我國へ這つて來たといふに過ぎない。原因を攻究すれば其處には種々雜多な事情が潜在して居るには相違ないが、歸する處は利己主義から出發して居る。生活難も其一つには違ひない。けれども人の思想が頽弱に流れて、刹那々々の淫逸放縱を漁るやうになつたが爲めである。一刻も早く此の弊を矯めなければ國家は滅亡する」と手を拱くであらう。或者は又「戰勝の結果だ。併し斯う國民全體が惰眠を貪る樣では、國家の前途は暗膽である」とさう知り乍らそれでは何うすれば、時代風潮を改善し、利己主義を矯正し、惰眠を覺醒し得るかといふに對しては何等の考へを持つてゐないやうである。云はゞ然かいふ識者自身も、實は其渦中の人となつて居るが爲めではなからうか。

□是れでは如何に政府當局が、富國強兵の實を擧げんが爲め、國民全般に其の思想を築かうとしても到底不可能である。言ふ迄もなく富國強兵の根底となる可きものは、個人々々の精神と肉體に在る。若し國民の思想と力量とが、他國のそれに劣るやうな事であれば、それは眞の富國強兵といふ事は出來ない筈である。戰時にばかり強兵であるかのやうに見える國は、戰後必ず大なる疲憊に惱まされるのである。歷史は整然と是等の事實を證して餘りあるではないか。

□富國強兵！國家最後の獨立問題は理が非でも是れに據らなければならぬ。役の悲慘な戰爭といふものが、若しも地上を去つた時代が來たら左も右く、然うでない限りは、丁度個人の間に爭ひの絕へないやうに、國と國との當然の權利と當然の權利の爭ひが生じた時、其の最後の解決は只戰爭の一あるのみとすれば、如何に富國強兵の實を擧げんかに就ては、國民全體が眞面目に考慮しなければならぬ大問題である。然るに事實は何うか。「餅屋は餅屋」に委せろと云つて國民は一向頓着しない。軍人も又軍人で頭數さへ揃へばそれで適いと云つた風で、更に強兵などは調はぬやうな目下の狀態である。大切な落し物をして說き乍ら、それを拾はふともせず、遮二無二馬車馬的に突進しやうとする其足元に民のあるのを氣付かぬといふのは、何たる恐味な事ではなからうか。

□先達故鄕の兄から、近日中に簡閱點呼があるといふ通知が來た「私は工兵の第二乙種である。從來なら餘程大きな戰爭でもない限り、招集される筈のない第二乙種迄が今年から簡閱點呼をする事になつたのだといふ。私は喜んで簡閱點呼に應ずる「又戰爭があれば決して身を犧牲にする事を辭も欲はない。けれども茲に最も熟慮を要す可き一つの問題がある。それは若し其場合に私の身體が健全でなかつたら何うするかといふ事である。如何に數が多くとも、若し其軍人の體質が劣等であつたなら、最後の勝利は到底望み得ないにも係はらず徒らに其頭數を揃へる事にのみ傾到して居るのは何ういふ譯であらうか。

□青年の體質が年々衰弱になつて行くのは何が爲めであるか。榮養不良か、それとも運動不足か、否決して然うではない。もつと大きな理由がある筈である。それは言ふ迄もなく風紀の頽廢より生じたる處の花柳病の蔓延であるが、此の恐る可き病毒は、今や滔々として全國を隈なく腐敗し盡さんとしてゐる有樣ではないか。之れが爲めに離婚流產並に乳兒の死亡率は遞に激增し

た剩へ精神病患者さへ出來るに至つた [illegible]
は未だ此悲慘な惡傾向が國家浮沈の問 [illegible]
から、誰も氣付いて居る者がない。何 [illegible]
あらう。

□國家百年の大計を樹立せんには、必 [illegible]
いふ事を忘れてはならぬ。現在の國民 [illegible]
[illegible]

（小林生）

大正七年七月一日印刷（毎月一回一日發行）
大正七年七月一日發行 一部 定價金十錢

編輯兼發行人 神田區今川小路一丁目三番地 伊藤秀吉
印刷人 小石川區大塚窪町一番地 久保民生
印刷所 京橋區弓町十二番地 千代田印刷株式會社
發行所 神田區表猿樂町十番地 廓清會發行所 電話本局四〇三五番 振替東京二七〇七二番

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廣告主へ御用の際は必ず雑誌「清泉」によると御申添を乞ふ

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Koza-gun, Sagami (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 8

診察毎朝及毎夕　但祭日及日曜之他

院長診察月、金、木、午前及木午後六時

林、森田兩副長は目下當院に在勤

東京三番町三十番地(市ケ谷見附內)

電話番町六二 五一六

東洋内科醫院

院長 醫學博士 **高田畊安**

電話ちがさき二番 **南湖院**

神奈川縣茅ケ崎海濱(從停車場半里)

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察土曜日午後　入院診後應需

診察毎朝　但祭日及日曜及土曜之他

君が腦神經病は治る者と信ぜよ
主効
□腦充血□耳鳴
□腦膜炎□頭痛
□神經痛□眩暈
□逆上症□健忘
□卒中□便祕
□中風□癲癇
島村博士證明
腦病良藥
健腦丸
KENNOGWAN
四回分 金二拾錢
半週分 金四十錢
一週分 金七十錢
二週分 金一圓卅錢
三週分 金一圓八拾錢
五週分 金二圓八十錢
拾週分 金五圓
本舗 大阪 東京 丹平商會藥房
而して……腦、神經病特效藥
健腦丸を用ゐよ!!!
健腦丸の効果は世既に定評あり。
特長
▲健腦丸を少量宛常用せば、逆上を引下げ、便通をよくし、恐る可き腦充血を快治し、中風卒中を未發に防ぎ、記憶力の增進を促す特効あり。

一部定價金十錢

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY